HD 革命 /WinProtector
with
Network Controller

ユーザーズ・マニュアル

目　　次

ご利用いただけるシステム環境（システム要件）…… 3
Network Controller について …… 4
注意事項・制限事項 …… 6
Network Controller のメイン画面 …… 8
グループ編集（「グループ編集」タブ）…… 9
　・グループ編集 …… 9
　・PC 編集 …… 11
　・PC 検索 …… 12
クライアント PC 操作（「クライアント PC 操作」タブ）…… 13
　・PC 電源操作 …… 13
　・PC 操作 …… 14
　・デバイスロック …… 17
HD 革命 /Eraser の制御（「Eraser」タブ」）…… 19
　・データ抹消 …… 19
HD 革命 /WinProtector の制御（「WinProtector」タブ）…… 24
　・PC 保護 …… 24
　・設定 …… 27
タスクの連続実行、その他のツール（「ツール」タブ）…… 38
　・連続実行 …… 38
スケジュールの設定 …… 41
その他の機能（メイン画面から）…… 43
　・データベース設定とライセンス情報の確認 …… 43
　・クライアント PC の情報確認 …… 44

ご利用いただけるシステム環境（システム要件）

HD 革命 /WinProtector with Network Controller（本マニュアルでは以降「Network Controller」といいます）の管理 PC としてご利用いただくには、次のコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

コンピューターシステム環境

オペレーティングシステム（OS）（いずれも日本語版）	Windows 10 32bit/64bit 版 Windows 8.1 32bit/64bit 版 Windows 8 32bit/64bit 版 Windows 7 32bit/64bit 版（SP1 以降） Windows Server 2012/2012 R2 64bit 版 Windows Server 2008 R2 64bit 版 ※Windows Vista/XP、Windows Server 2003/2003 R2 には対応していません。 ※Windows RT/RT8.1 には対応していません。 ※ アドミニストレーター権限（管理者権限）が必要です。
コンピューター	上記の OS が稼働するコンピューター（PC/AT 互換機のみ） ※Macintosh（Mac）には対応していません。
メモリー	Windows 10/8.1/8/7 64bit 版：2GB 以上 Windows 10/8.1/8/7 32bit 版：1GB 以上 Windows Server 2012/2012 R2 64bit 版：4GB 以上 Windows Server 2008 R2 64bit 版：4GB 以上
CD/DVD ドライブ	CD-ROM を読み込めるドライブ
ハードディスク SSD	100MB の空き容量（本製品のインストール用として）
その他	データベースサーバーとして SQL Server 2012 Express Edition FTP サーバーとして、Internet Information Service（IIS7） 管理 PC およびクライアント PC には「.Net Framework 4.5」以上

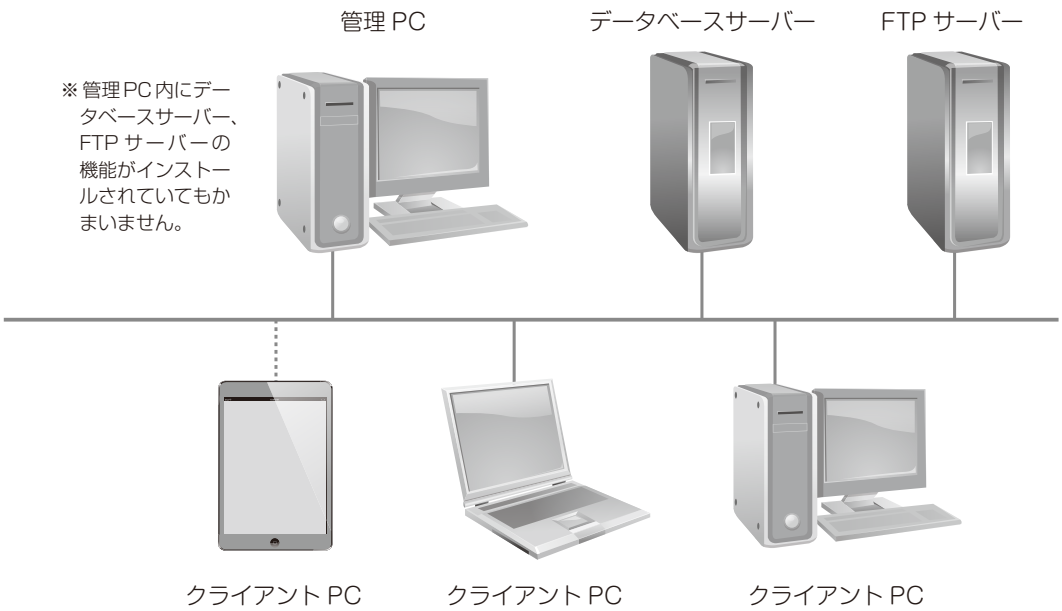
Network Controller について

Network Controller は、環境復元ソフト「HD 革命 /WinProtector」およびファイル抹消ソフト「HD 革命 /Eraser ファイル抹消」をリモート環境で制御することができるシステムです。その他にも、Network Controller では管理 PC 上で以下の機能が利用できます。

① PC のグループ管理……ネットワーク上の PC を一元管理することができます。
②電源管理……クライアント PC の電源オン／電源オフができます。
③ PC 操作……ファイルの送付やサイレントインストールを行うことができます。
④デバイスロック……マウス／キーボードや CD/DVD、USB メモリーのアクセス制御ができます。
⑤ファイル抹消……「HD 革命 /Eraser ファイル抹消」の機能でファイルを抹消できます。
⑥環境復元……「HD 革命 /WinProtector」の機能で環境復元（環境保護）ができます。
⑦連続実行機能……上記①～⑥の操作を組み合わせ処理できます。
⑧スケジュール実行……上記操作をスケジュール設定して実行できます。

Network Controller の構成

Network Controller は、管理する PC（管理 PC)、データベースサーバー、FTP サーバーおよび管理対象 PC（クライアント PC）で構成されます。



管理 PC の構成について

管理 PC は以下のプログラム（サービス）で構成されています。

① NCManager
管理者が利用する GUI アプリケーションで、クライアント PC への処理依頼やスケジュール登録などを行うことができます。
②オーダ実行プログラム
タスクスケジューラに登録されたオーダを、オーダ処理サービスに処理依頼を行うプログラムです。
③状態監視サービス
クライアント PC の状態を取得し、処理依頼したオーダの結果を受け取る常駐型のサービスです。
④オーダ処理サービス
NCManager からの処理を受け付け、対象となるクライアント PC に処理依頼を行う常駐型のサービスです。

クライアント PC の構成について

クライアント PC は以下のプログラム（サービス）で構成されています。

①クライアントエージェント
管理 PC からのオーダ受付をし、クライアント PC の状態を管理 PC に送信する常駐型のエージェントです。
②ＰＣ起動サービス
受け付けたオーダを実行する常駐型サービスです。
③ PC 監視サービス
PC の状態を監視し変更があると、クライアントエージェントに変更報告を行う常駐型サービスです。
④ HD 革命 /WinProtector
クライアント PC に「HD 革命 /WinProtectpr」がインストールされていると、環境復元（環境保護）を行うことができます。
⑤ HD 革命 /Eraser ファイル抹消
クライアント PC に「HD 革命 /Eraser ファイル抹消」がインストールされていると、ファイル抹消を行うことができます。

Point

オーダとタスク
NCManager で、依頼する **1 つの処理を「オーダ」**といいます。ここでいう「処理」とは、シャットダウン、再起動、資料再配布、HD 革命 /WinProtector の保護開始などの動作を指します。処理の対象となる PC は 1 台、複数、または 1 つ以上のグループです。オーダを、対象となる**個々の PC に割り当てた処理を「タスク」**といいます。

注意事項・制限事項

Network Controller の使用開始に当たっての注意事項

・Windows の休止状態／サスペンド、スタンバイ／スリープなどになると正しく動作しない場合があります。管理対象の PC は、電源管理（電源オプション）で「コンピューターをスリープ状態にする。」は「なし」としてください。
・ネットワーク脅威防止ソフトウエアがインストールされている場合には管理 PC との通信がブロックされる場合があります。その場合はネットワーク脅威防止ソフトウエアのファイアフォールで、アプリケーションの許可設定をしてください。
・異なるサブネット間で管理する場合は、サブネット間にあるルータで利用する通信ポートの送受信を許可してください。デフォルト値は、10001, 10002, 10003 番ですが、別の番号での運用も可能です。その他、FTP サーバー（21 番）、SQLServer（1433 番）の送受信の許可が必要です。
・異なるサブネット間で WOL を利用するには、ルータで BroadCast（IPv4 の場合）を許可する必要があります。
・IPv6 での通信機能は含んでいますが、サポート対象外となります。IPv6 運用でも、IPv4 との相互運用している場合などは運用方式がいくつかあるので、導入についてはお客様環境で動作検証などを実施する必要があります。

デバイスロック機能における注意事項

・マウス / キーボードロック時に、クライアント PC で CTL+ALT+DEL キーを押すと、タスクマネージャが起動します。ただし、タスクマネージャの EXE を監視しており、起動したらそのプロセスを終了します。起動から終了まで多少のタイムラグがあります。
・マウス/ キーボードおよびデスクトップのロックは、ログアウト（シャットダウンも）されると解除されます。
・USB および CD/DVD のアクセス制御は、ログアウト（シャットダウンも）しても有効です。利用を再開するには、アクセスの許可が必要です。なお、設定／解除を行っても有効にならない環境がありますので、そのときはクライアント PC の再起動を行ってください。

「HD 革命 /WinProtector」機能を使用する場合の注意事項

・対応ファイルシステムは NTFS と FAT32 となります。仮想ディスク（.VHD）をマウントしたドライブには対応していません。
・BitLocker 暗号化機能に対応していますが、「除外フォルダーの設定」と「リアルモードから保護を開始する」、「継続保護」の設定は使用できません。なお、BitLocker 以外の暗号化ソフトウェアとの併用はできません。
・RAID 機能（Intel Smart Response Technology）が有効の場合は、「リアルモードから保護を開始する」オプション（28 ページ）を選択しても、メモリ不足により保護を開始できない場合があります。「OS 起動時から保護を開始する」設定であれば、起動時からの保護を行うことは可能です。
・Network Controller で制御をする場合は、クライアント PC の Windows Update の自動更新の設定を「更新プログラムを確認しない」に設定してください。

「HD 革命 /Eraser ファイル抹消」機能を使用する場合の注意事項

・ファイルを誤って抹消しないように、抹消前に必ず抹消してはいけないファイルが含まれていないかどうかを確認してください。
・抹消時間はクライアント PC のコンピューター環境や選択した抹消方式によって異なります。ファイルの容量、ハードウェアの速度によっては抹消に大変時間がかかることがあります。
・対応ファイルシステムは、NTFS、FAT32（1 セクターのバイト数が 512 バイトのみ）となります。FAT12、FAT16、exFAT など、他のファイルシステム上のファイルを抹消することはできません。
・ダイナミックディスク上のファイルを抹消することはできません。
・512 バイトエミュレーションを行っていない 4K セクター（4K ネイティブ）フォーマットのハードディスク上のファイルを抹消することはできません。
・NTFS の機能（代替データストリーム、リパースポイント、スパースファイル）が施されたファイルは抹消できません。
・暗号化されたファイルは抹消できません。
・他のアプリケーションによって使用中（ファイルが開かれた状態）のファイルを抹消することはできません。
・NTFS の機能（代替データストリーム、リパースポイント、スパースファイル）が施されたファイルは抹消できません。
・ネットワークドライブ上のファイルは抹消できません。

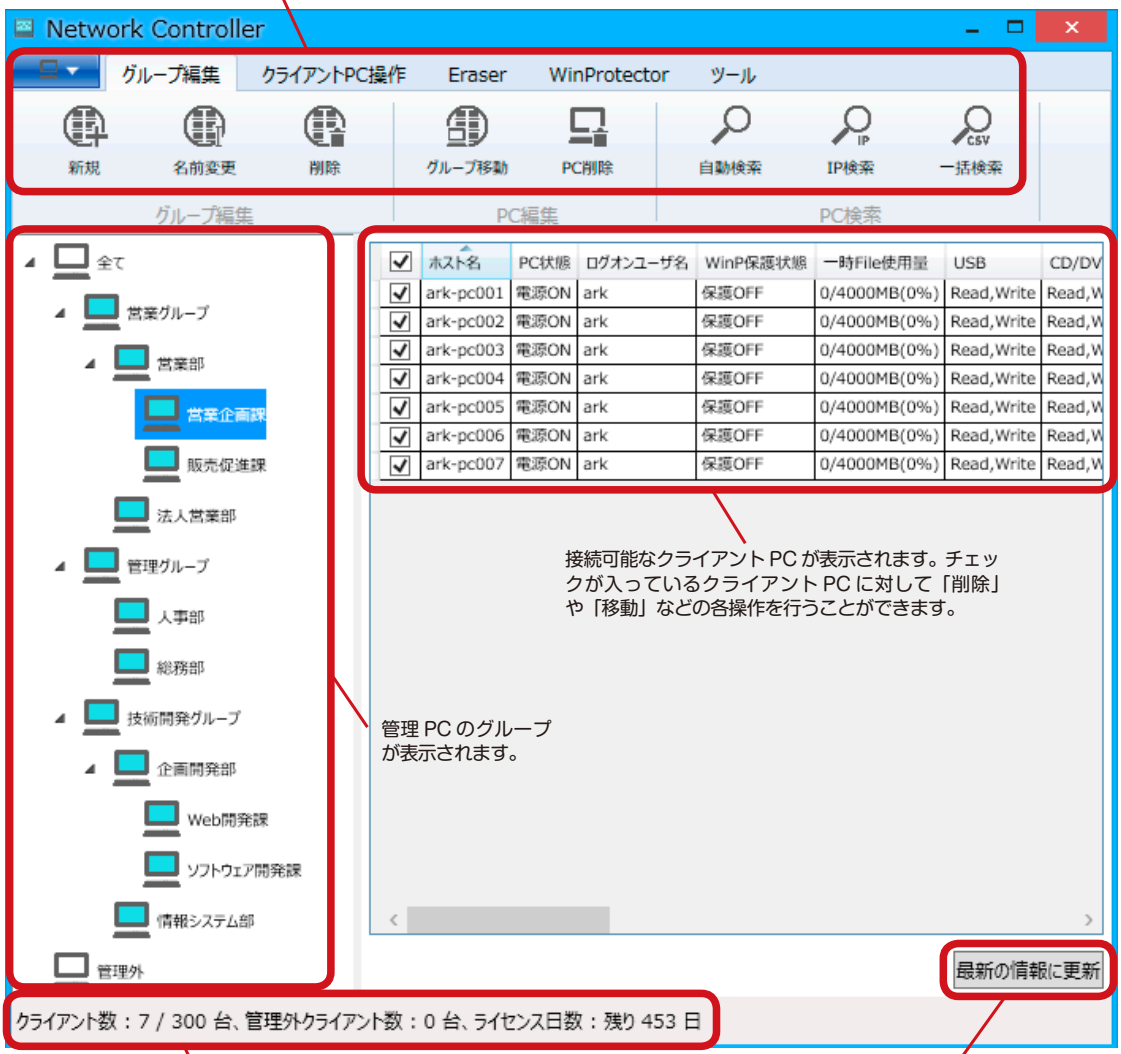
Network Controller 運用に際しての注意事項

・Network Controller を使用する環境において、データベースの定期的なバックアップを推奨します。
・資料配布などに FTP サーバーを利用していますが、基本的に FTP サーバーにアップしたファイルは削除していません。よって、利用可能なハードディスク容量が少ない場合はファイルの整理をする必要があります。ただし、オーダやタスクを再実行する場合において、FTP サーバーに対象となるファイルがないとエラーとなりますので注意してください。
・スケジュール実行は、Windows タスクスケジューラで行っています。1 度しか実行しない場合も Windows タスクスケジューラに登録されています。これらは、「ツール」タブ→「作業履歴」と選択し、「オーダー覧」に登録されたオーダを右クリック→「スケジュール削除」と選択することで削除が可能です。

Network Controller のメイン画面

Network Controller のメイン画面は、クライアント PC の各操作を一元管理する画面となっています。このメイン画面を「NCManager」といいます。

クライアント PC に対する各操作を行います。



接続可能なクライアント PC が表示されます。チェックが入っているクライアント PC に対して「削除」や「移動」などの各操作を行うことができます。

管理 PC のグループが表示されます。

Network Controller で制御可能なクライアント数とライセンス情報が表示されます。

クライアント PC の接続状況を最新の情報に更新します。

グループ編集（「グループ編集」タブ）

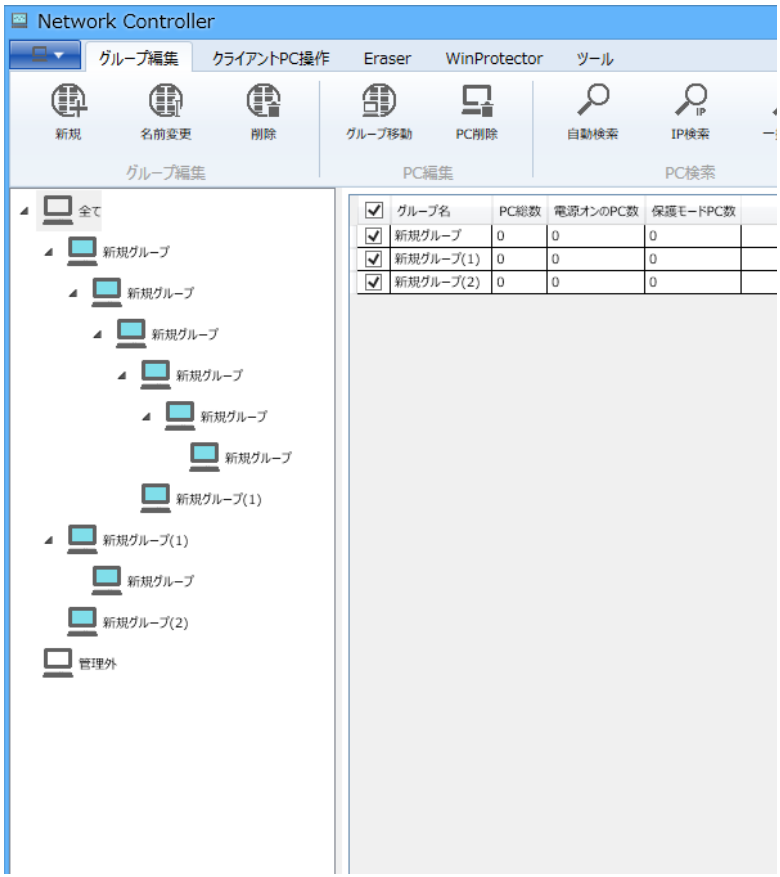
「グループ編集」タブでは、クライアント PC が所属するグループの作成や、クライアント PC の削除などの操作を行うことができます。

グループ編集

■新規

クライアント PC が所属する新しいグループを作成します。

グループはメイン画面左側のペインにツリー表示されます。グループは 7 階層まで作成できます。

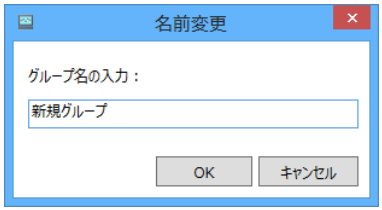


Point

12 ページのいずれかの方法でクライアント PC を追加すると、最初に管理外の下に入ります。管理外に登録されたクライアント PC を作成したグループに移動（11 ページ）することで操作ができるようになります。

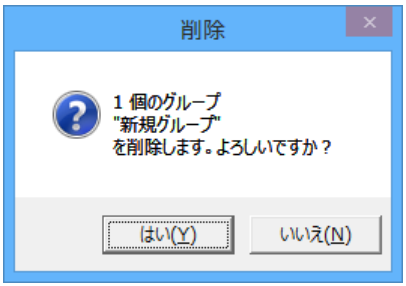
■名前変更

登録されているグループ名を変更できます。次の画面で新しいグループ名を入力します。



■削除

メイン画面右側のペインで削除したいグループを選択して「削除」をクリックすると、次の画面が表示されます。グループ名が表示されますので、削除するグループに間違いがないか確認してください。「全て」と「管理外」は削除できません。



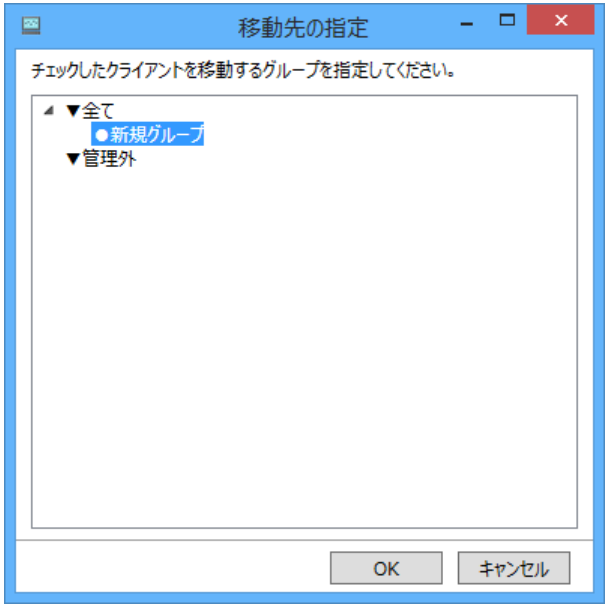
Point

グループにクライアント PC が登録されている場合は、グループを削除できません。クライアント PC を別のグループに移動するか、管理外に登録してから削除を行うようにしてください。
また、削除するグループの下層にグループが存在すると、同様に削除ができません。下層のグループを下から順に削除してください。

PC 編集

■グループ移動

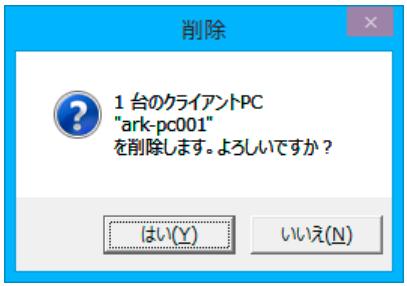
任意のクライアント PC を別のグループに移動できます。メイン画面右側のペインで移動したいクライアント PC を選択し、次の画面で移動先のグループを指定します。



■ PC 削除

メイン画面右側のペインで削除（所属を解除）する PC を選択して「PC 削除」をクリックすると、次の画面が表示されます。

PC 名が表示されますので、削除するクライアント PC に間違いがないか確認してください。



PC 検索

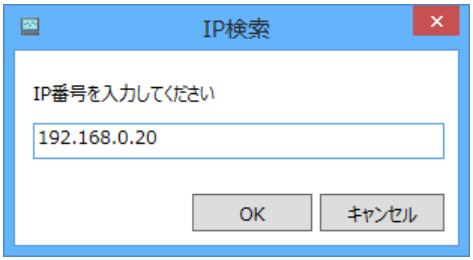
■自動検索

ネットワークを検索し、接続可能なクライアント PC を検索します。クライアント PC の数が多い場合は、すべてのクライアント PC の情報が登録されるまで時間がかかる場合があります。

自動検索を行うクライアント PC は、BroadCast が届くネットワーク内にあることが条件となります。

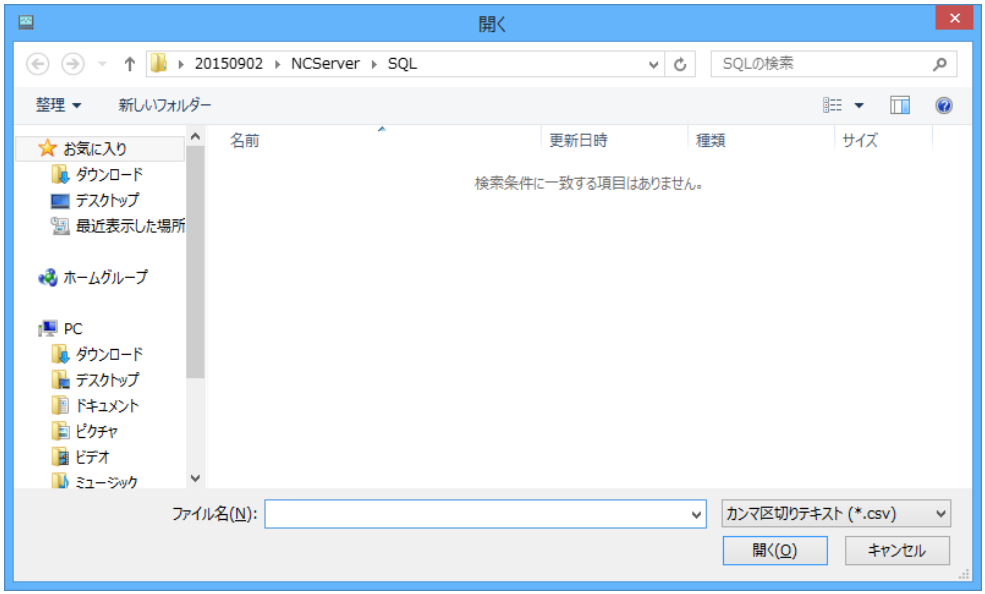
■ IP 検索

IP を指定して PC を検索することができます。次の画面で IP を入力してください。



■一括検索

あらかじめクライアント PC の IP 番号が記載された CSV ファイルを作成しておくことで、クライアント PC を一括で登録することができます。



クライアント PC 操作（「クライアント PC 操作」タブ）

「クライアント PC 操作」タブでは、クライアント PC の電源管理、メッセージ送信、デバイスロックなどクライアント PC を管理する上で必要な機能が集約されています。

PC 電源操作

■電源 ON

メイン画面で選択したクライアント PC の電源を ON にします。クライアント PC は、Wake On LAN（WOL）機能に対応して BroadCast が届くネットワーク内にあることが条件となります。その他の注意事項は 6 ページを参照してください。

■シャットダウン

メイン画面で選択したクライアント PC をシャットダウンします。

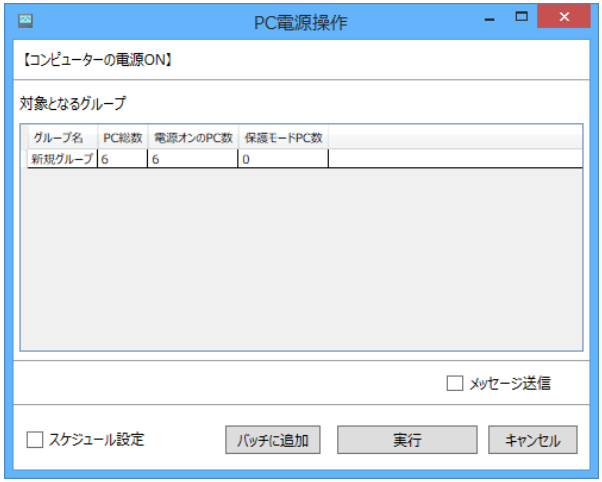
■再起動

メイン画面で選択したクライアント PC を再起動します。

■強制ログオフ

メイン画面で選択したクライアント PC を強制的にログオフ（サインアウト）します。

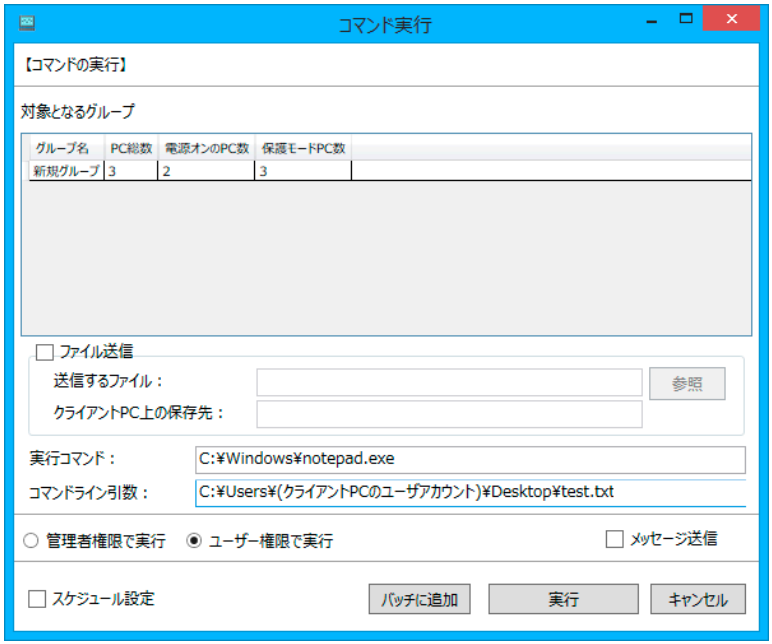
※上記の各 PC 電源操作実行時には、下の画面が表示されます。



PC 操作

■コマンド実行

メイン画面で選択したクライアント PC をコマンドラインにより操作します。次の画面が表示されますので、実行する操作を指定します。ファイルを送信してそのファイルを実行することもできます。

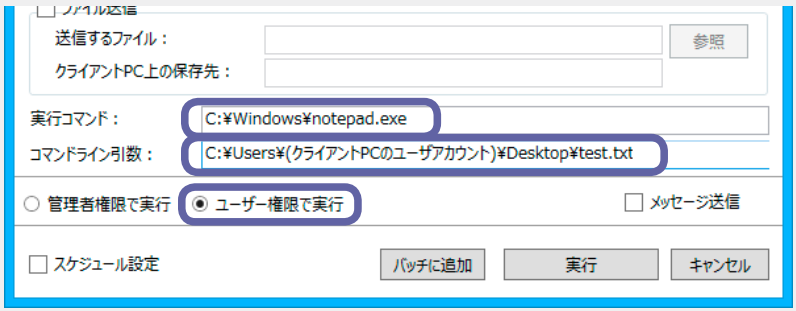


Point

コマンド実行の例

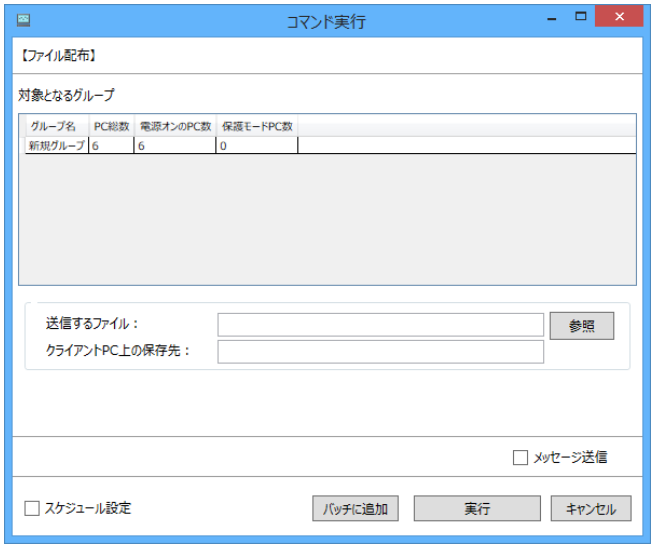
「コマンド実行」では、例えばインストール用の実行ファイルをクライアント PC に送信し、サイレントインストールを行うようなことができます。クライアント PC で実行するコマンド（アプリケーション）が管理者権限を必要とする場合は、「管理者権限で実行」を選択してください。
それ以外にも、クライアント PC でメモ帳を起動してテキストファイルを開く、などを実行することも可能です。コマンド実行を行うには、以下の例を参考にしてください。

例：「ユーザー権限」でメモ帳（notepad.exe）を起動してテスクトップの「test.txt」を開く



■資料配付

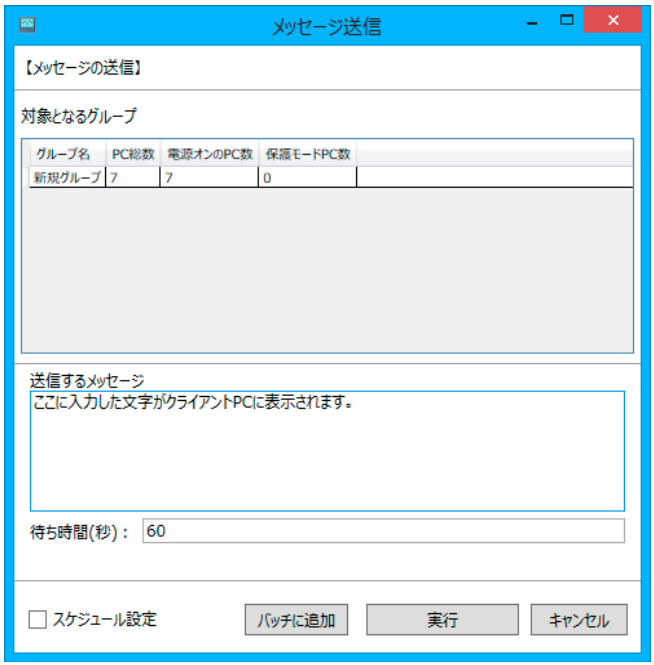
メイン画面で選択したクライアント PC に対してファイルを配布します。「クライアント PC 上の保存先：」は、フルパスで入力してください。



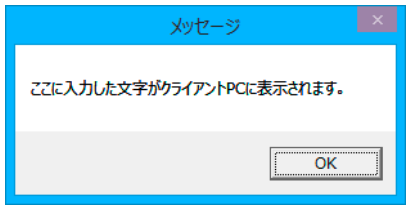
■メッセージ

メイン画面で選択したクライアント PC に対してメッセージを送信します。

「送信するメッセージ」欄に入力した文字が、クライアント PC においてメッセージウィンドウで表示されます。



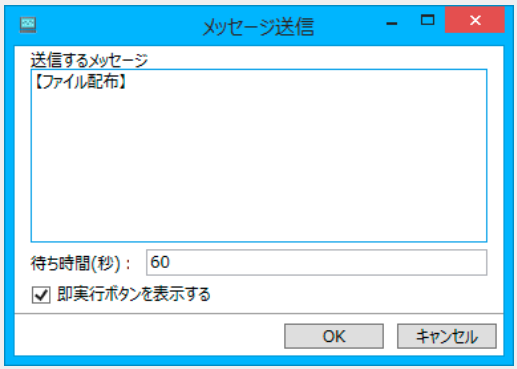
クライアント PC には次の画面が表示され、指定した秒数が経過すると自動的に閉じます。



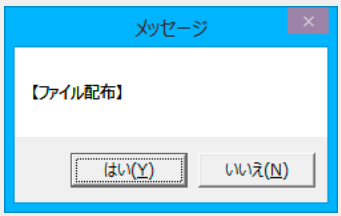
クライアント PC に表示されるメッセージウィンドウ

各操作画面での「メッセージ送信」

各操作画面で「メッセージ送信」にチェックを入れると次の画面が表示されます。
この画面では、メイン画面で「メッセージ」をクリックしたときと同様にクライアント PC にメッセージを表示します。

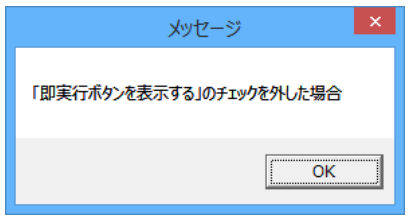


「即実行ボタンを表示する」にチェックが入っている場合、クライアント PC には選択式のメッセージウィンドウが表示され、「はい」をクリックするとすぐに指定した動作が行われます。
例えば、「資料配付」を実行している場合は、「はい」をクリックすると指定した場所にすぐにファイルが送信され、「いいえ」をクリックすると「待ち時間」で指定した秒数が経過してからファイルが送信されます。



Point

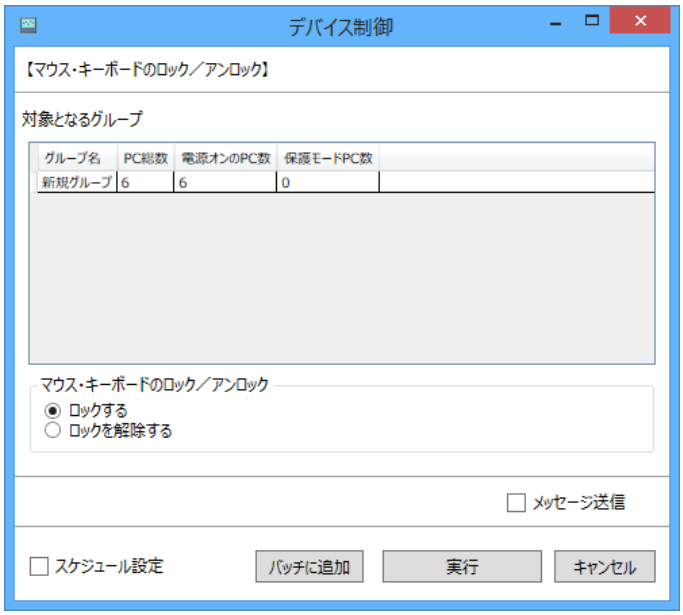
「即実行ボタンを表示する」のチェックを外した場合は、選択式のメッセージではなく「OK」ボタンのみとなります。



デバイスロック

■マウス／キーボード

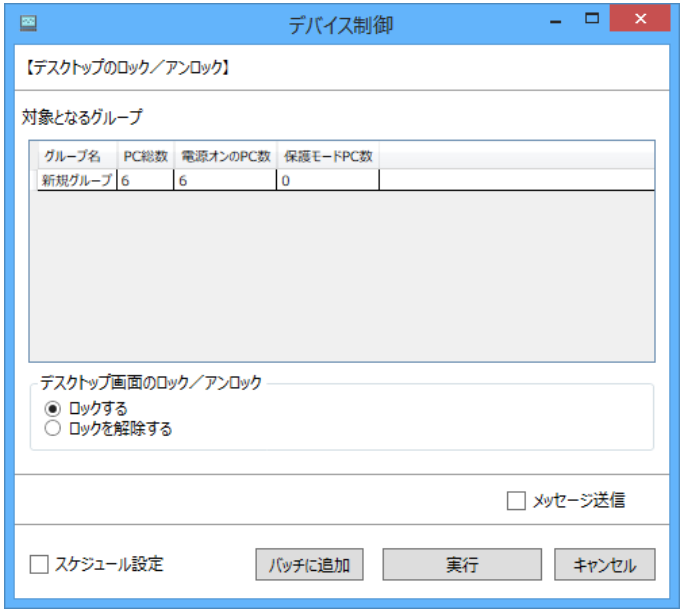
メイン画面で選択したクライアント PC のマウスとキーボードをロックして入力ができないようにします。



キーボードがロックされた状態であっても「Ctrl」＋「Alt」＋「Delete」」キーは無効になりません。

■デスクトップ

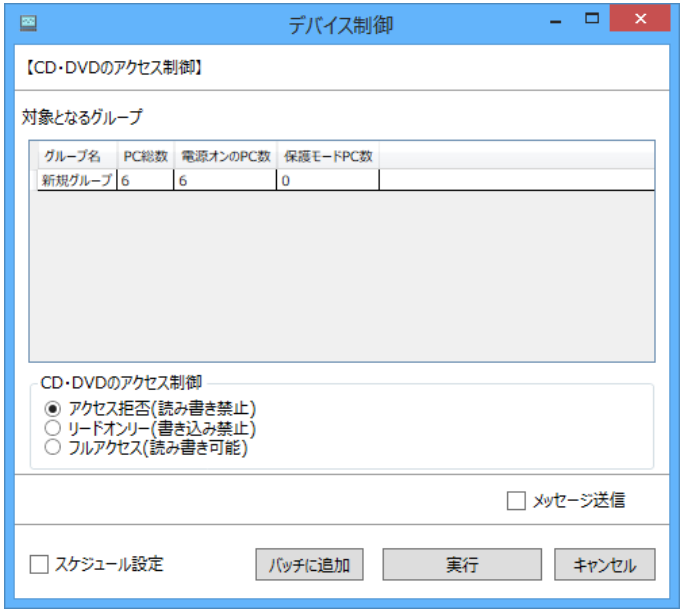
メイン画面で選択したクライアント PC のデスクトップ画面をロックして入力ができないようにします。



最前面に表示する設定のウィンドウは、ロックされた状態であっても表示されたままとなります。

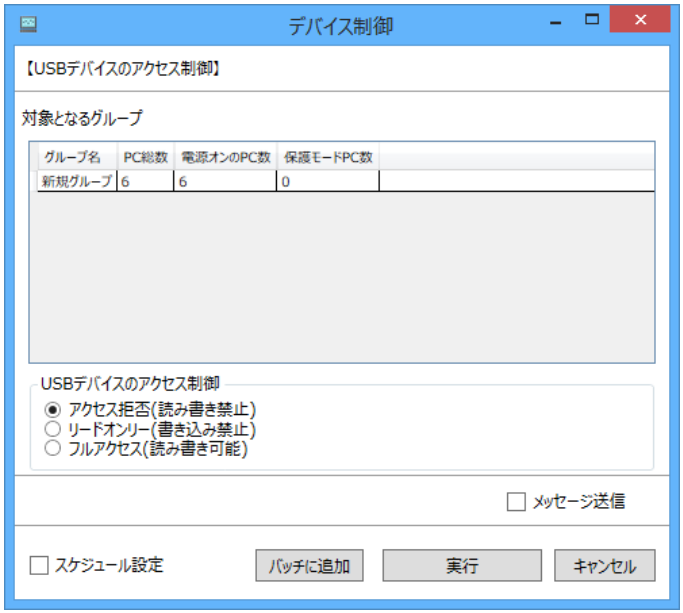
CD/DVD

メイン画面で選択したクライアント PC の CD/DVD ドライブの制御を行います。



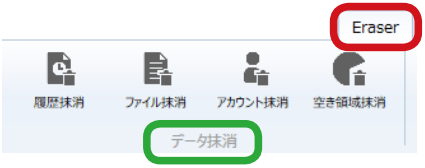
USB

メイン画面で選択したクライアント PC の USB デバイスの制御を行います。



HD 革命 /Eraser の制御（「Eraser」タブ）

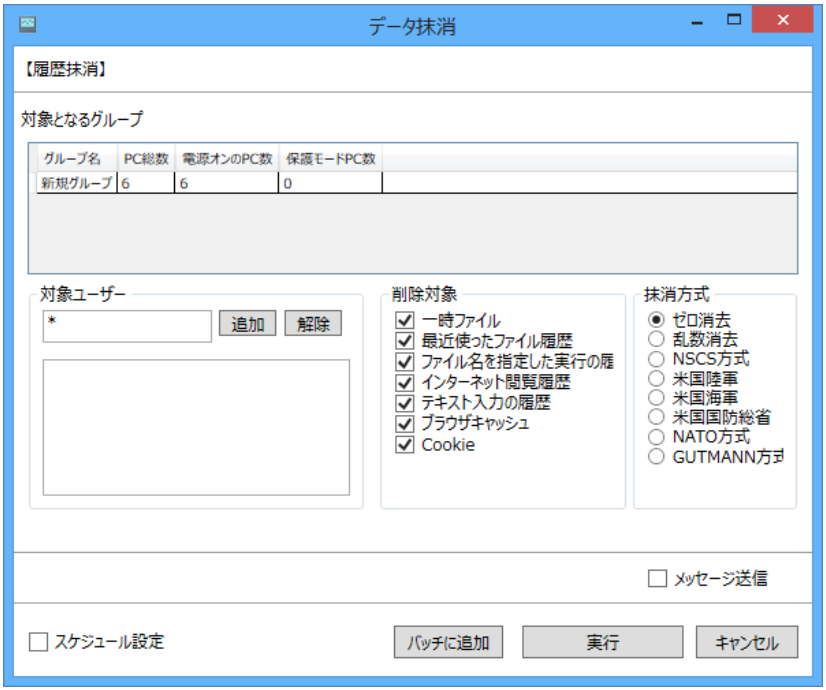
「Eraser」タブでは、各クライアント PC にインストールされている「HD 革命 /Eraser ファイル抹消」の動作を制御します。

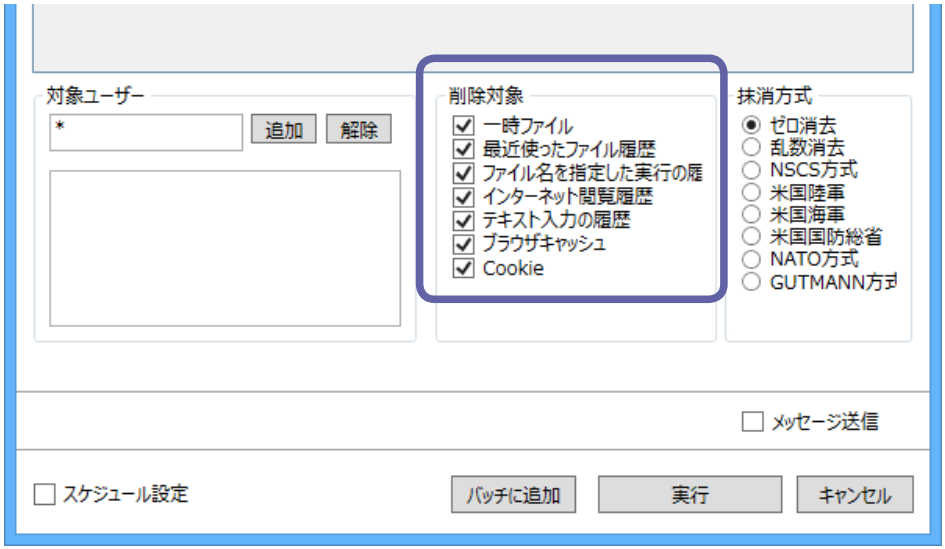


データ抹消

■履歴抹消

「履歴の抹消」では、メイン画面で選択したクライアント PC において「対象ユーザー」で追加したユーザーのデータを抹消します。対象ユーザーにはワイルドカード（＊と？）を使用することができます。削除する項目は右側の「削除対象」の中から選択します。





●一時ファイル

Windows やアプリケーションが一時的に作成するファイルの保存先フォルダー（一時フォルダー）の中を抹消します。Windows の環境変数「TEMP」「TMP」で指定されているフォルダー（標準では「C:/Users/[ログオン中のアカウント名]/AppData/Local/Temp」）が抹消対象となります。」

●最近使ったファイル履歴

Windows の「スタート」メニューなどに表示される最近使ったファイルの履歴を抹消します。

●ファイル名を指定して実行の履歴

Windows の「ファイル名を指定して実行」で「名前」欄に入力された履歴を抹消します。

●インターネットの閲覧履歴

「Internet Explorer」「Mozilla Firefox」「Google Chrome」「Microsoft Edge」の閲覧履歴を抹消できます。複数のインターネットブラウザをインストールされている場合、選択した項目が全てのインターネットブラウザにおいて抹消されます。

●テキスト入力の履歴

Web サイトのテキストボックスに入力したユーザー名や住所などのテキストで、インターネットブラウザに保存されている履歴を抹消します。抹消を行うと、過去に入力した内容が表示されなくなるため、再度入力が必要となります。

●ブラウザのキャッシュ

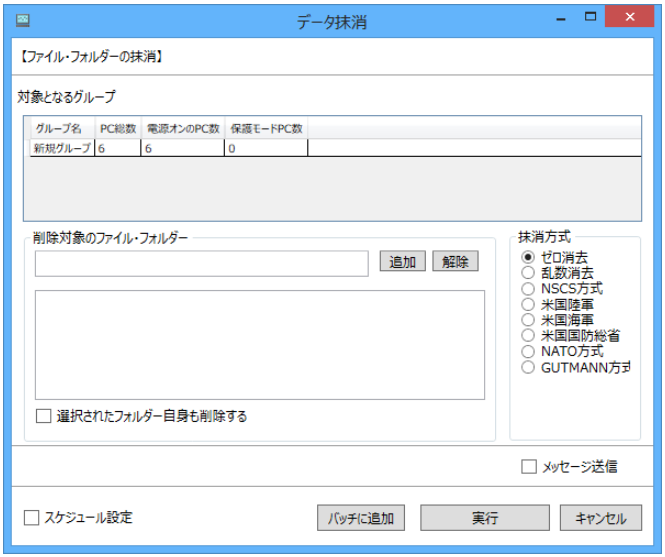
インターネットブラウザが保存している Web サイトの表示を高速化するためのテキストや画像データのキャッシュを抹消します。抹消を行うと、ページのデータを改めて読み込むため、表示に時間がかかります。

● Cookie

通販サイトなどで利用されている、Web サイトの閲覧者の情報をコンピューターに一時的に記録するための Cookie（情報ファイル）を抹消します。Web サイトで使用するためのユーザー名やパスワードが Cookie に保存されていた場合は、再度入力が必要となります。

■ファイル抹消

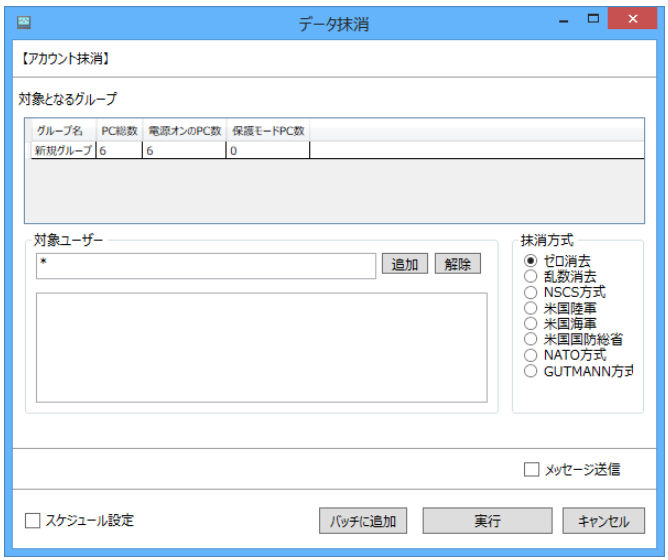
「ファイル抹消」では、メイン画面で選択したクライアント PC のファイル、フォルダーを抹消します。「削除対象のファイル・フォルダー」はフルパスで入力してください。なお、ファイル名にはワイルドカード（＊と？）を使用することもできます。



「選択されたフォルダー自身も削除する」のオプションを選択すると、抹消対象として追加したフォルダーの中に存在するファイル、フォルダーを抹消した後に追加したフォルダー自身も削除されます。スケジュールを設定して定期的に追加したフォルダーの中のファイル、フォルダーのみ抹消するような場合は、このオプションを選択しないようにしてください。

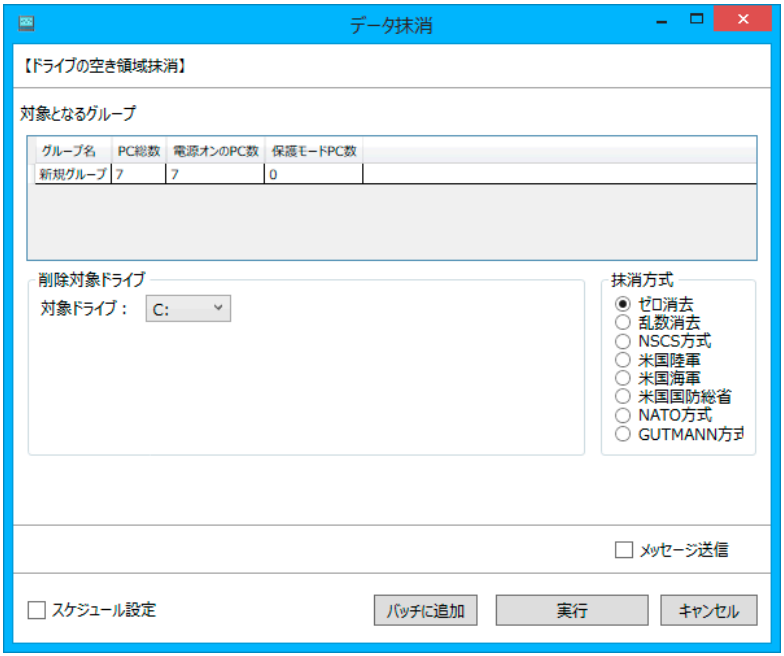
■アカウント抹消

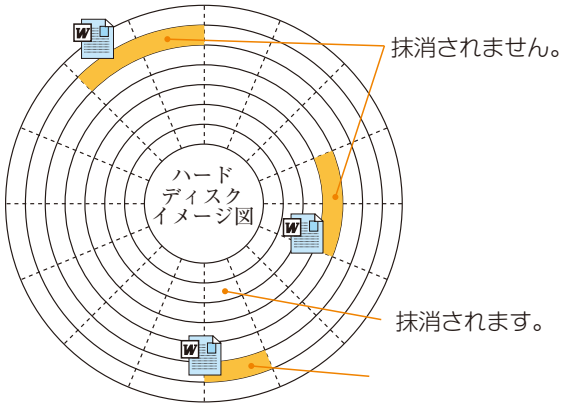
「アカウント抹消」では、メイン画面で選択したクライアント PC に登録されているユーザーアカウントを抹消します。「＊」を指定した場合は、全てのユーザーアカウントを抹消します。ただし、「Administrator」、「Guest」、「DefaultAccount」、現在ログオン中のユーザーアカウントは抹消できません。



■空き領域抹消

「空き領域の抹消」では、メイン画面で選択したクライアント PC において、「削除対象ドライブ」で指定したドライブの空き領域（ハードディスクの中でファイルが存在しない領域）を抹消します。下のイメージ図のように、ファイルが置かれている領域以外の領域が「空き領域」となります。





設定したスケジュールの時刻になったときに他のスケジュール抹消が実行されている場合は、スケジュールによる抹消は実行されません。

抹消方式について

クライアント PC にインストールされた「HD 革命 /Eraser ファイル抹消」では次の抹消方式でデータの抹消を行うことができます。

● 0（ゼロ）で抹消

書き込み回数：1 回、抹消レベル：低

各クラスタに 0（ゼロ）を書き込みます。抹消レベルは低くなりますが、抹消時間は最も速くなります。

●乱数値で抹消

書き込み回数：1 回、抹消レベル：低

各クラスタに乱数を書き込みます。「0（ゼロ）で抹消」より少し抹消レベルが高く、比較的短時間で抹消することができます。

● NCSC 方式

書き込み回数：3 回、抹消レベル：中

NCSC（米国コンピュータセキュリティーセンター）で定められた方式です。最初に各クラスタに固定値 1（0x00）を書き込み、次にその補数（0xFF）で上書きし、最後に固定値 2（0x77）で上書きします。

●米国陸軍方式

書き込み回数：3 回、抹消レベル：中

米国陸軍で定められた抹消方式です。最初に各クラスタに乱数を書き込み、次に固定値（0xFF）で上書きし、最後にその補数（0x00）で上書きします。

●米国海軍方式

書き込み回数：3 回、抹消レベル：中

米国海軍で定められた抹消方式です。最初に各クラスタに固定値（0x88）を書き込み、次にその補数（0x77）で上書きし、最後に乱数で上書きした後に書き込み検証を行います。

●米国国防総省方式

書き込み回数：3 回、抹消レベル：中

米国国防総省（ペンタゴン）で定められた抹消方式です。最初に各クラスタに固定値（0xFF）を書き込み、次にその補数（0x00）で上書きし、最後に乱数で上書きした後に書き込み検証を行います。

● NATO 方式

書き込み回数：7 回、抹消レベル：高

NATO（北大西洋条約機構）で定められた抹消方式です。固定値 1（0x00）→固定値 2（0xFF）→固定値 1（0x00）→固定値 2（0xFF）→固定値 1（0x00）→固定値 2（0xFF）→乱数値で上書きします。

● Gutmann 方式

書き込み回数：35 回、抹消レベル：高

コンピューター科学者グートマン（PeterGutmann）博士によって提唱された抹消方式です。乱数値で 4 回→固定値（0x55 や 0xAA など）で 27 回→乱数で 4 回上書きします。最も安全な消去方式ですが、書き込み回数が計 35 回と多いため、非常に時間がかかります。

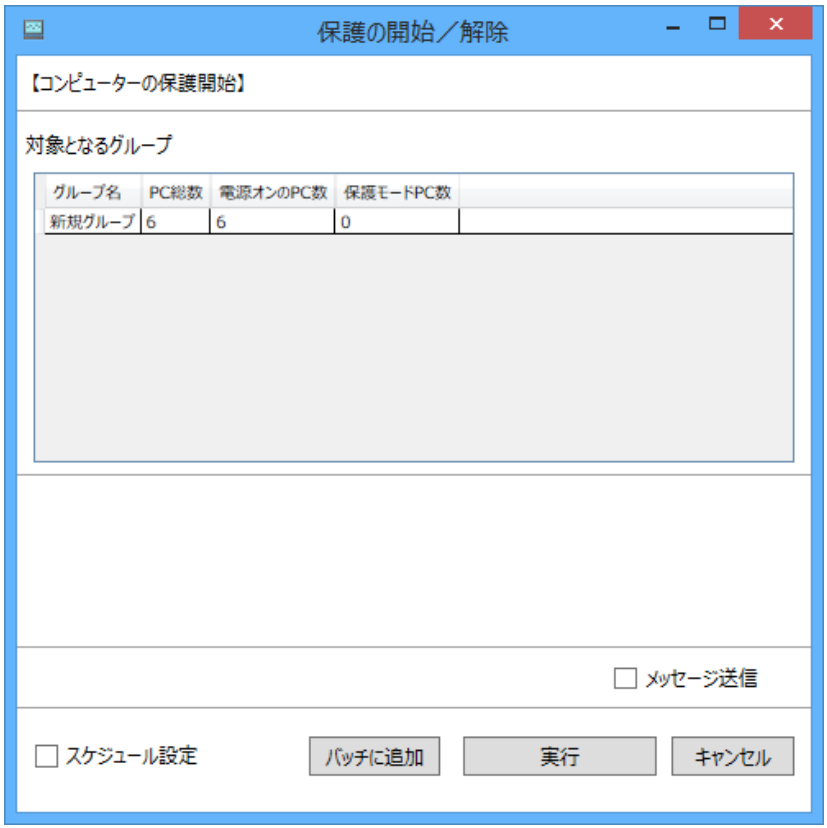
HD 革命 /WinProtector の制御（「WinProtector」タブ）

「WinProtector」タブでは、各クライアント PC にインストールされている「HD 革命 /WinProtector」の動作を制御します。

PC 保護

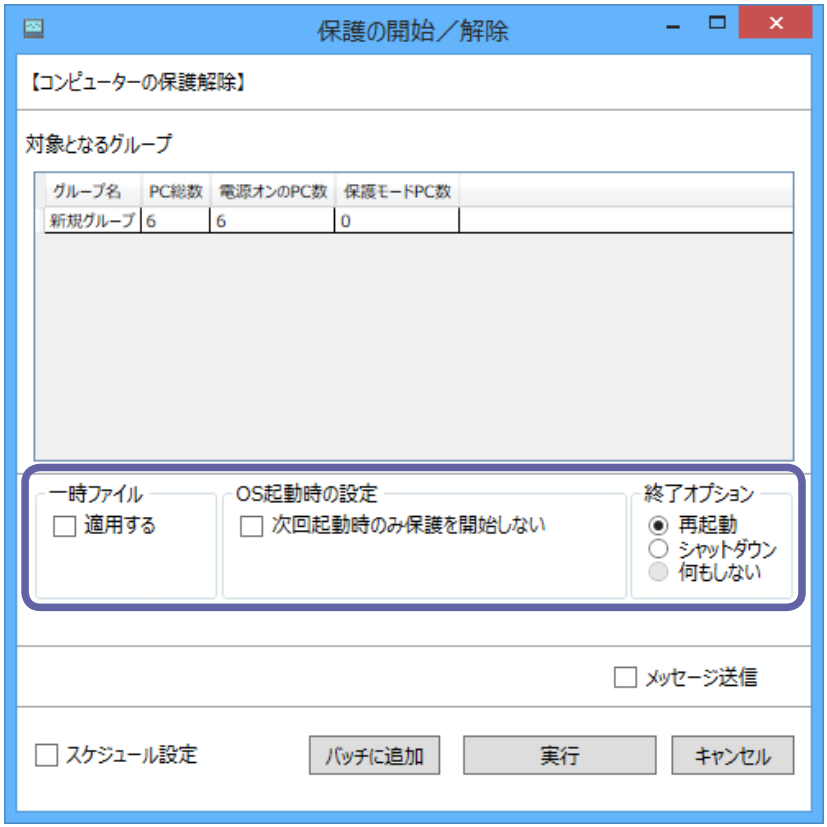
■保護開始

メイン画面で選択したクライアント PC の保護を開始します。



■保護解除

メイン画面で選択したクライアント PC の保護を解除します。



●一時ファイル

「一時ファイル」は、保護を開始してから変更された内容をドライブに書き込みます。「設定」の「リミット時の動作」タブで「現在の状態をドライブに適用後、保護を継続する」を選択した場合は、必ず変更が適用されます。

Point

「一時ファイル」について

一時ファイルは、保護されたドライブに対して行われた書き込みをキャッシュするファイルとなり、ドライブに書き込みが行われるデータが多いほど増加します。そのため、システムユーティリティやインデックスを作成するようなソフトウェアが存在すると、一時ファイルの使用容量は通常の場合よりも早く増加することがあります。

● OS 起動時の設定

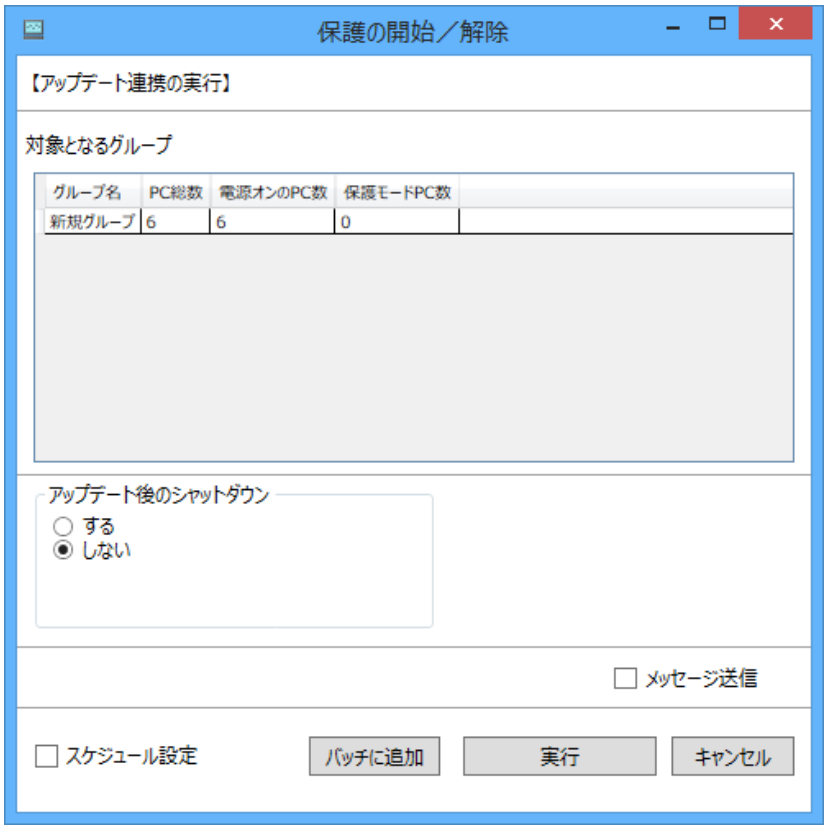
次回の OS 起動時に保護をしない場合にチェックを入れます。OS 起動時に保護を開始する設定になっていない場合は指定しても無効となります。

●終了オプション

終了時の動作を選択します。「一時ファイル」で「適用する」を選択することで、「何もしない」が選択できるようになります。クライアント PC は、変更内容をドライブに適用した後に保護が解除されたままの状態となります。

■アップデート連携

設定 の「■アップデート連携」タブ（32 ページ）で設定した内容で「Windows Update」とアンチウィルスソフトウェアのアップデートを行います。



Point

「アップデート連携」タブでの設定について

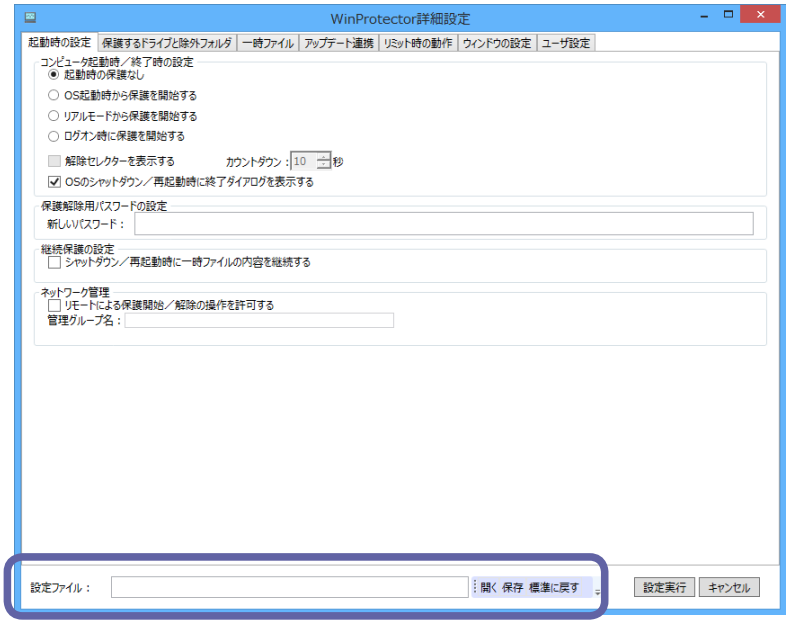
「■アップデート連携」タブ（32 ページ）で更新処理が有効になっていないとアップデート連携を実行できませんので、最初に設定を行うようにしてください。なお、「スケジュールで実行する」、「シャットダウン時に実行する」を選択していても、この画面からアップデート連携を即時実行することができます。この場合、実行するタイミングで設定した「制限時間」に関係なくアップデートが最後まで実行されます。

設定

■設定

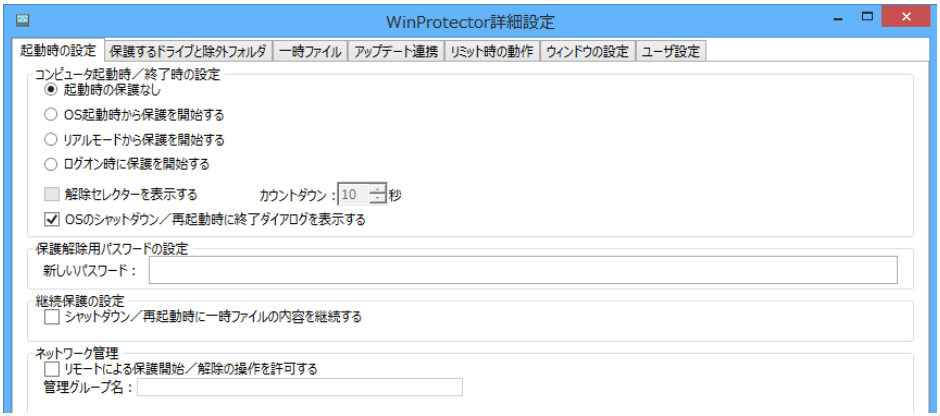
「設定」をクリックすると「WinProtector 詳細設定」画面が表示されます。この画面の各タブで、メイン画面で選択したクライアント PC に対する HD 革命 /WinProtector のオプションを設定します。「設定実行」をクリックすると設定ファイルが更新されクライアント PC の再起動が行われます。

設定した内容は、画面下の「設定ファイル」より xml ファイルで保存ができます。保存した xml ファイルを読み込ませることで、各タブのオプション設定を一度に変更できます。「標準に戻す」をクリックすると、HD 革命 /WinProtector のオプションが規定値に戻ります。



■設定―「起動時の設定」タブ

保護を行うタイミングと解除時のセレクター、ダイアログを設定します。



●**コンピューター起動時／終了時の設定**

・起動時の保護なし
　起動時の保護は行われません。

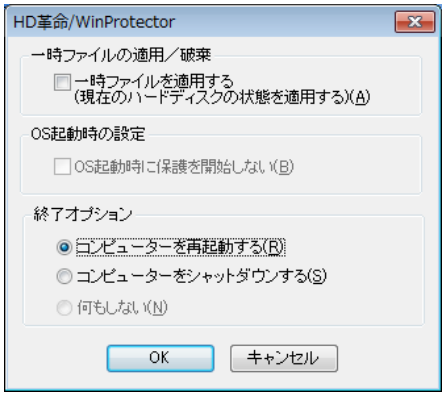
・OS 起動時から保護を開始する
　Windows の起動時から保護を行います。

・リアルモードから保護を開始する
　コンピューターの起動時から保護を行います。クライアント PC が GPT ディスク環境の場合は選択しないでください。

・ログオン時に保護を開始する
　ユーザーのログオン時から保護を行います。

・解除セレクターを表示する
　OS が起動するときに保護を解除するためのセレクターを表示するかどうかを設定します。

・OS のシャットダウン／再起動時に終了ダイアログを表示する
　OS のシャットダウン／再起動時に次の画面が表示され動作を選択できます。



●**保護解除用パスワードの設定**

　クライアント PC 上で HD 革命 /WinProtector の保護を解除するためのパスワードを設定します（半角英数 8 文字まで）。

●**継続保護の設定**

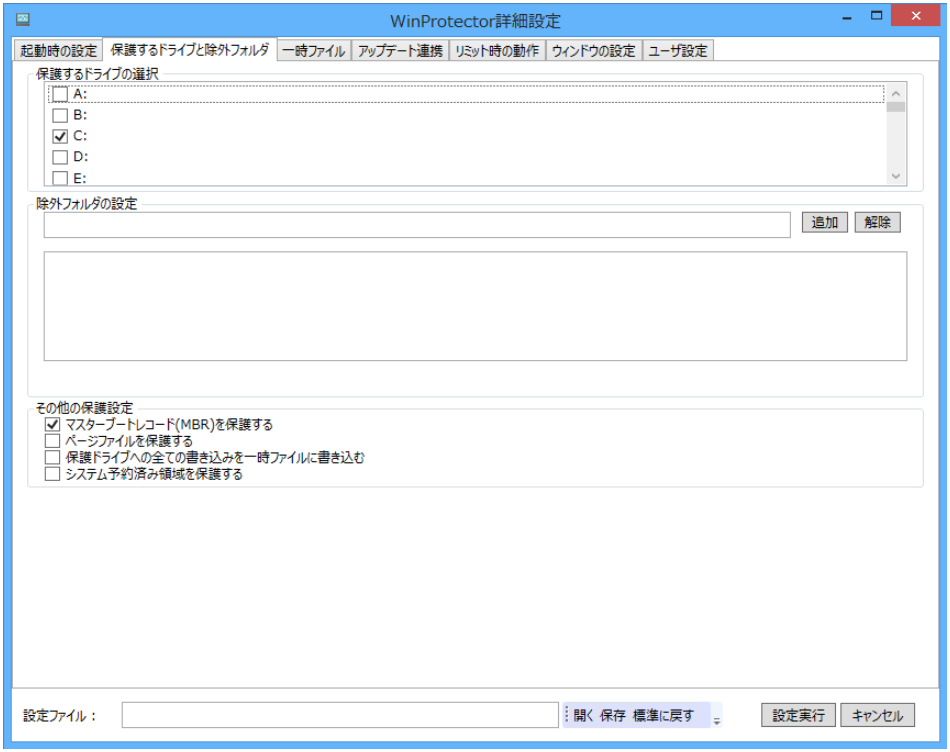
・シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する
　一時ファイルを破棄せずに継続して使用します。これにより、インストール後に再起動を行うようなアプリケーションでも、変更を適用することなく継続して使用できるようになります。このオプションを使用するには、「リアルモードから保護を開始する」を選択する必要があるため、クライアント PC が GPT ディスク環境の場合は選択しないでください。

●**ネットワーク管理**

・リモートによる保護開始／解除の操作を許可する
　別のコンピューターにインストールされている「HD 革命 /WinProtector with Network Manager」から、クライアント PC をリモートで操作することを許可するかどうかを設定します。

■設定―「保護するドライブと除外フォルダ」タブ

HD 革命 /WinProtector で保護するドライブおよびフォルダーを設定します。



●保護するドライブの選択

表示されているドライブの中から、クライアント PC で保護したいドライブ文字を選択します。保護できるドライブはローカルのハードディスクドライブに限られ、リムーバブルドライブ、ネットワークドライブ、CD/DVD ドライバなどは保護できません。また、クライアント PC に存在しないドライブを選択しても効果はありません。

●除外フォルダーの設定

「追加」をクリックしてクライアント PC で除外するフォルダー（保護をしないフォルダー）を追加します。BitLocker で暗号化されているドライブ内のフォルダーは選択しないでください。

●その他の保護設定

・マスターブートレコード（MBR）を保護する

　マスターブートレコードを保護の対象とするかを設定します。特別な理由がなければ通常は ON の状態で使用してください。

・ページファイルを保護する

　Windows のページファイルを保護の対象とするかを設定します。一時ファイルの使用容量は、保護しないときよりも増加します。

・保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む

　空き領域も含め全てのドライブを全て保護の対象とするかを設定します。一時ファイルの使用容量は、保護しないときよりも増加します。

・システムで予約済み領域を保護する

　システムドライブの前にある「システムで予約済み」領域を保護の対象とするかを設定します。

Point

「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルへ書き込む」オプションについて

HD 革命 /WinProtector では、ドライブの保護中に使用領域（保護を開始した時点でファイル・フォルダーが存在する領域）の変更が行われると、その変更は「一時ファイル」に書き込まれます。新規に作成するファイル･フォルダーにおいては通常「空き領域」に書き込まれますが、この「空き領域」を保護するかどうかで、一時ファイルの使用量に次のような違いがあります。

●オプションを使用しない（「空き領域」への書き込みはそのまま書き込む）

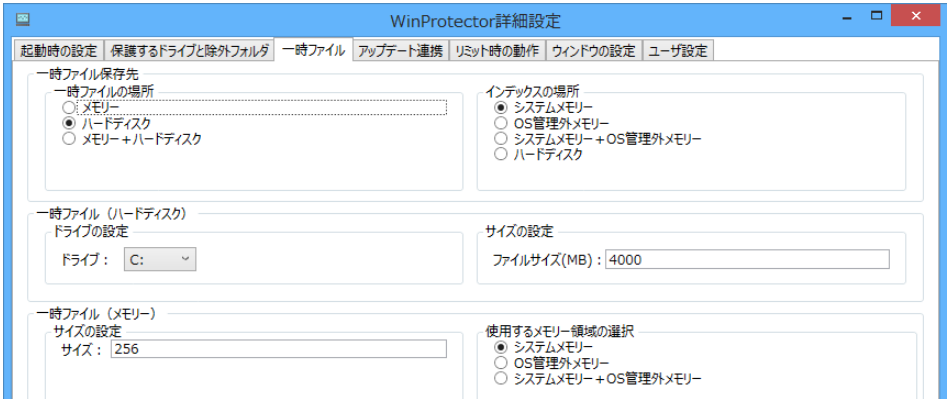
ドライブの「空き領域」への書き込みは、実際のファイル・フォルダーは「空き領域」に書き込み、ファイル・フォルダーの登録情報のみ一時ファイルに書き込みます。これにより、一時ファイルの使用量を節約することができます。

●オプションを使用する（「空き領域」への書き込みを「一時ファイル」に書き込む）

ドライブの「空き領域」も保護の対象となり、保護中のドライブへの書き込みは、空き領域への書き込みも含めすべて一時ファイルに書き込まれます。このオプションを使用すると、保護中のドライブへの書き込みは行わないので、一時ファイルの使用量は増加しますがセキュリティは向上します。

■設定―「一時ファイル」タブ

「一時ファイル」と「インデックス」の保存場所とサイズを設定します。



●一時ファイル保存場所

「一時ファイル」の場所を設定します。「メモリー＋ハードディスク」を設定した場合は、最初にメモリーが消費されます。

●インデックスの場所

「インデックス」は、保護するドライブのどのセクターが使用されたかを記録するものです。一時ファイルとは別に場所を指定します。「OS 管理外メモリー」は 64bit 版の Windows では使用できません。

●一時ファイル（ハードディスク）

「一時ファイル」をハードディスクに保存する場合に、どのドライブに保存するかを指定します。

●サイズの設定

「一時ファイル」をハードディスクに保存する場合にサイズを指定します。必要以上に大きくするとハードディスクの容量を圧迫しますので、適切なサイズを指定してください。

●一時ファイル（メモリー）

「一時ファイル」をメモリーに保存する場合にサイズを指定します。「OS 管理外メモリー」は 64bit 版の Windows では使用できません。

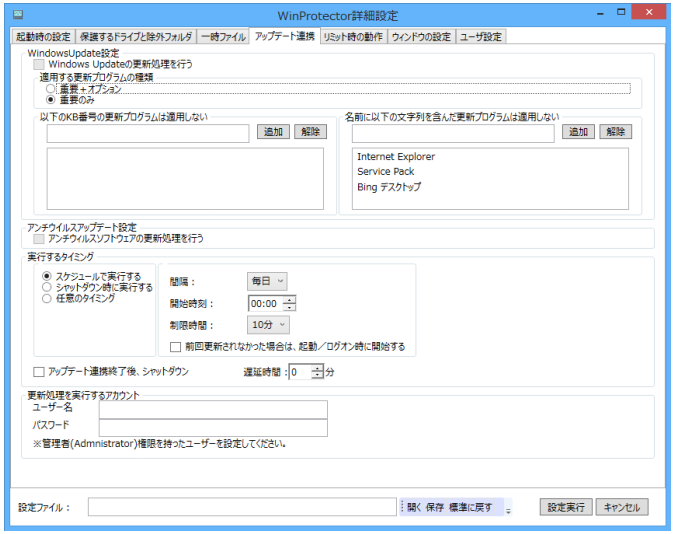
●使用するメモリー領域の選択

「一時ファイル」をメモリーに保存する場合に、どのメモリーを使用するかを選択します。「OS 管理外メモリー」は 64bit 版の Windows では使用できません。

> ⚠ 一時ファイル（メモリー）のサイズを大きくしても、実際に使用できるメモリーが不足している場合、保護を行うことはできません。また、システムメモリーを使用する場合、サイズを大きくすると Windows が使用できるメモリー容量が少なくなります。
> 保護を行うことができないときや動作が遅くなる場合は、サイズを小さくするかハードディスクのみを使用するようにしてください。

■設定―「アップデート連携」タブ

「Windows Update」、またはアンチウィルスソフトの更新処理について設定します。



● Windows Update 設定

・Windows Update の更新処理を行う

適用する更新プログラムの種類を設定します。適用しない更新プログラムは、KB 番号または文字列で除外できます。更新処理を行うには 28 ページの「OS 起動時から保護を開始する」を選択してください。

●アンチウィルスアップデート設定

・アンチウィルスソフトウェアの更新処理を行う

クライアント PC にインストールされているアンチウィルスソフトウェアのプログラムや定義ファイルの更新を行います。更新処理を行うには 28 ページの「OS 起動時から保護を開始する」を選択してください。

●実行するタイミング

アップデート連携を実施するタイミングを指定します。スケジュールで実行する場合は、右側の「間隔：」「開始時刻：」「制限時間：」を設定します。シャットダウン時、または任意のタイミングで実行する場合は、スケジュールを設定していても実行されません。

・前回更新されなかった場合は、起動／ログオン時に開始する

指定したタイミングで更新が行われなかった場合、次の起動時またはログオン時に更新が開始します。

・アップデート連携終了後、シャットダウン

アップデート連携終了後にコンピューターをシャットダウンできます。アップデート連携中はコンピューターが何回か再起動することがありますが、アップデートが完了するまではシャットダウンは行われません。

・遅延時間

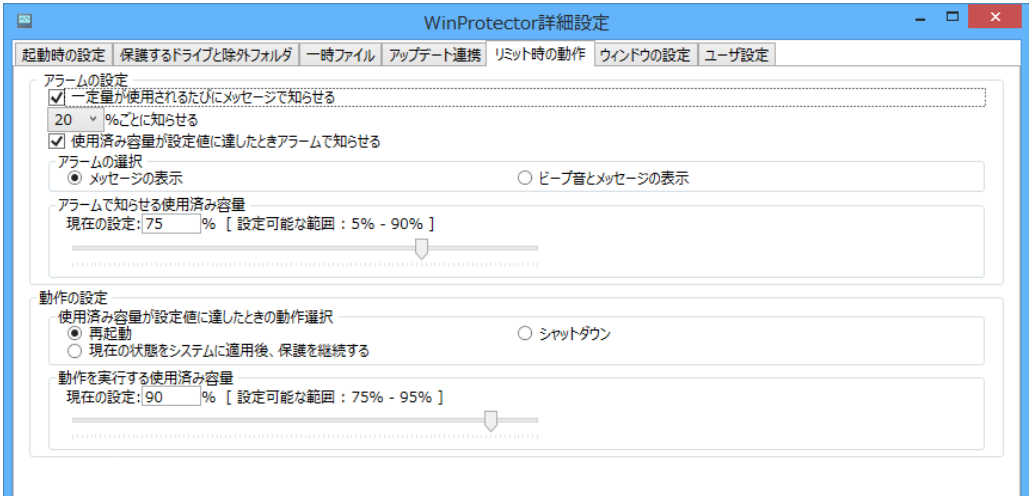
アップデート連携時に、自動ログオンしてから実際に処理を開始するまでの遅延時間（待機時間）を 0 ～ 10 分の範囲で設定できます。

●更新処理を実行するアカウント

Windows Update やアンチウィルスソフトによりコンピューターの再起動が行われた場合、自動的にログオンするためのユーザー名とパスワードを入力します。パスワードを入力します。入力された内容が間違っていると更新処理は行われません。

■設定―「リミット時の動作」タブ

「一時ファイル」の消費に関する動作や告知方法を設定します。



●アラームの設定

・一定量が使用されるたびにメッセージで知らせる
　一時ファイルが何%まで使用されたときにメッセージを表示するかを設定します。
・使用済み容量が設定値に達したときにアラームで知らせる
　一時ファイルの使用済み容量が設定した値を超えたときにどのような方法で警告するかを指定します。
・アラームで知らせる使用済み容量
　一時ファイルをどの程度消費したときに上記のアラームによって知らせるかを選択します。

●動作の設定

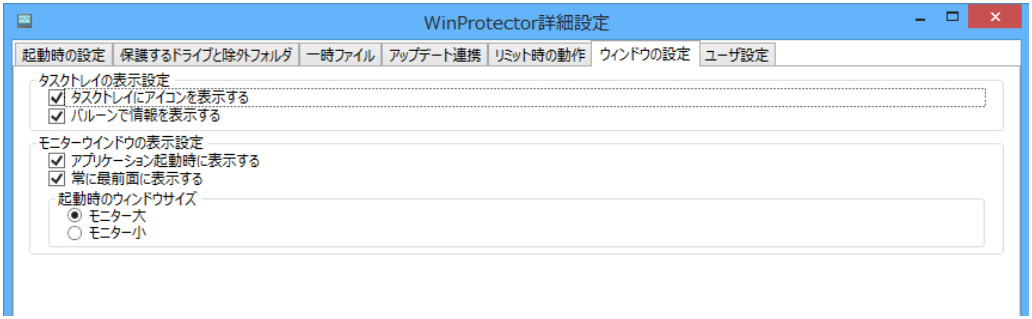
・使用済み容量が規定値に達したときの動作選択
　「アラームの設定」とは別に、一時ファイルが設定した値を超えたときの動作を設定します。「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」を選択した場合は、一時的に保護を解除して一時ファイルに保存された内容をドライブに書き込み、その後再度保護を行います。
・動作を実行する使用済み容量
　一時ファイルが何%まで使用されたときに、上記で設定した動作を行うかを設定します。

⚠

「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」オプションを選択する場合、29 ページの「保護するドライブと除外フォルダ」タブで「保護するドライブの選択」のドライブを 1 つだけ選択し、かつ 31 ページの「一時ファイル」タブで「一時ファイル保存場所」に「メモリー」を選択する必要があります。
また、他のアプリケーションから強制的に再起動が行われると、一時ファイルの内容が適用されずにシャットダウン／再起動が行われるため、タイミングによっては内容に不整合が起こり OS やアプリケーションの動作に支障が出る場合があります。

■設定―「ウィンドウの設定」タブ

アイコンやウィンドウに関する表示方法を設定します。



●タスクトレイの表示設定

・タスクトレイにアイコンを表示する

　タスクトレイにアイコンを表示するかどうかを設定します。

・バルーンで情報を表示する

　「リミット時の設定」タブの「アラームの設定」内容を基にバルーンで情報を表示します。

●モニターウィンドウの表示設定

・アプリケーション起動時に表示する

　HD 革命 /WinProtector を起動したときに、下のモニターウィンドウを表示するかどうかを設定します。

・常に最前面に表示する

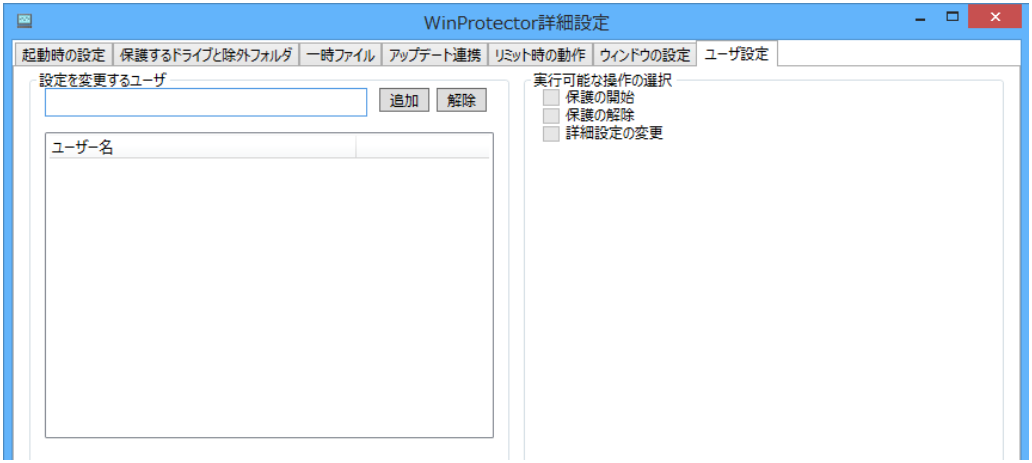
　モニターウィンドウを表示する際に、常に最前面に表示するかどうかを設定します。

・起動時のウィンドウサイズ

　モニターウィンドウには、大きいウィンドウと小さいウィンドウがありますので、どちらのサイズで表示するかを指定します。

■設定―「ユーザー設定」タブ

ログオン可能なユーザーごとの動作を選択することができます。



●設定を変更するユーザー

クライアント PC にログオン可能なユーザー名を追加します。ユーザー名には、「＊」によるワイルドカード指定ができます。

●実行可能な操作の選択

「ユーザー名」の欄に登録されたユーザー名を選択し、「保護の開始」「保護の解除」「詳細設定の変更」から実行する動作を選択します。クライアント PC で操作されたくない場合は、チェックを全て外しておくことで誤操作を防ぐことができます。

Point

特定ユーザーのログオン時に保護を開始する（しない）動作の設定

「起動時の設定」タブの「ログオン時に保護を開始する」と「保護の開始」の許可、不許可の設定を組み合わせることで、特定のユーザーがログオンした場合だけ、保護を開始する（または、保護を開始しない）という動作を設定することができます。
例えば、Administrator がログオンした場合は保護を開始せず、それ以外のユーザーのログオン時に保護を開始するようにしたい場合、

①「ログオン時に保護を開始する」オプションを ON
②「ユーザー設定」で、Administrator の「保護の開始」を OFF

に設定することで実現できます。
ただし、Administrator 以外のユーザーでログオンして保護が開始された後、そのユーザーがログオフし、次に Administrator がログオンした場合は、保護がかかったままになります。

アップデート連携について

「アップデート連携」は、HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間に、Windows Update 、アンチウィルスソフトウェアの自動更新を行う機能です。設定した日時になると、保護を一時解除し、ダウンロード、適用した上で保護を再開します。「アップデート連携」には、いくつかの制限および注意事項があります。以下に「アップデート連携」を実行するタイミングの例をあげて、動作を説明します。

〈タイミングの設定例〉

間　　隔：金曜日
開始時刻：23：00
制限時間：5 時間

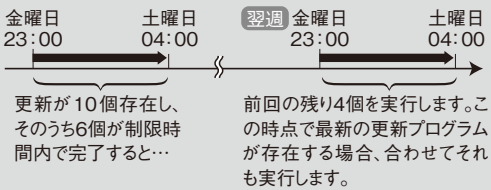
Point

この設定では、毎週金曜日の 23 時になると「アップデート連携」機能により自動更新が開始します。制限時間（開始から終了までの時間）はユーザーがリストの中から指定（最大 5 時間）できますが、実行可能なアップデートがすべて適用された場合は、制限時間の終了を待たずにコンピューターが再起動し保護を継続します。

アップデートの実行内容

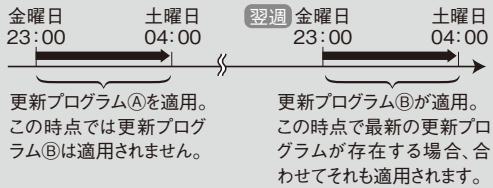
●アップデートが指定した時間内に終了しなかった場合

更新が制限時間（例では 5 時間）内に完了しなかった場合、残りの更新は、次の「アップデート連携」が実行されるタイミングで適用されます。
例えば更新プログラムが 10 個あり、制限時間内に 6 個まで完了した場合、残りの 4 個は次の「アップデート連携」のタイミングで適用されます。なお、終了時刻になっても更新が実行中だった場合、その更新は途中でキャンセルされ次のアップデート連携のタイミングで再度適用されます。



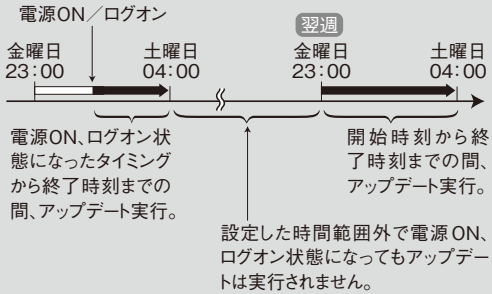
●更新プログラムの順序に依存関係がある場合

更新プログラムⒶに依存する更新プログラムⒷが存在する（更新プログラムⒶが先に適用されていないと、更新プログラムⒷが適用できない）場合、はじめに更新プログラムⒶを適用した後、次のアップデート連携のタイミングに更新プログラムⒷが適用されます。



●「実行するタイミング」（32 ページ）で「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」が OFF の場合

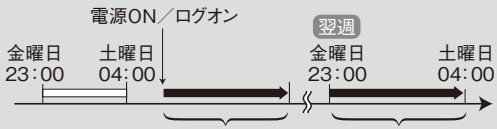
アップデートの実行には、「実行するタイミング」で設定した制限時間内で、コンピューターの電源が ON、かつ、ログオン状態である必要があります。
制限時間内にログオンされていない場合は、アップデートは実行されません。アップデートが実行されるのは、終了時刻までの間のみとなります。



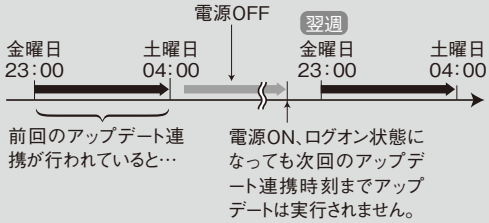
●「実行するタイミング」（32 ページ）で「前回開始されなかった場合、起動時／ログオン時に開始する」が ON の場合

アップデート連携の開始時刻から制限時間内に、コンピューターが起動していなかった等の理由でアップデート連携が行われていないとき、「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」オプション（32 ページ）が ON の場合は、コンピューターの電源が ON になった時やログオン時にアップデート連携を開始します。

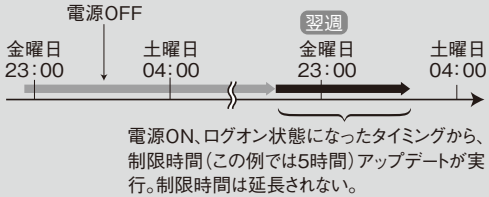
※ ログオン時に開始される場合は、通常のアップデート連携時と同様に「アップデート連携の開始時刻になりました。」のダイアログが表示され、コンピューターが再起動します）



前回のアップデート連携が行われている場合は、次回のアップデート連携開始時刻までアップデートは実行されません。



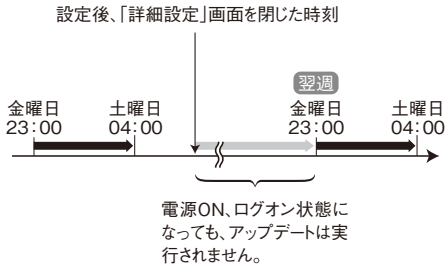
アップデート連携が設定されている時間範囲外にアップデート連携が開始し、アップデート連携の開始時刻を跨ぐ場合、アップデート開始から制限時間（この例では 5 時間）経過するまでアップデートが実行されます。
この場合、実行予定だったアップデート連携はキャンセルされ、次回のアップデート連携開始時刻までアップデートは実行されません。



Point

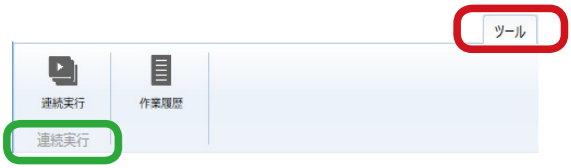
オプション設定直後のアップデート連携について

「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」オプションを ON にして「OK」を押し、「詳細設定」画面を閉じたのが 4:00 以降とすると、次のアップデート連携実行タイミング (次の 23:00) までの間は、時間範囲外でもアップデート連携は開始されません。
次の実行タイミングの終了時刻（次の 4:00）以降は、時間外でもアップデート連携を開始する対象となります。



タスクの連続実行、その他のツール（「ツール」タブ）

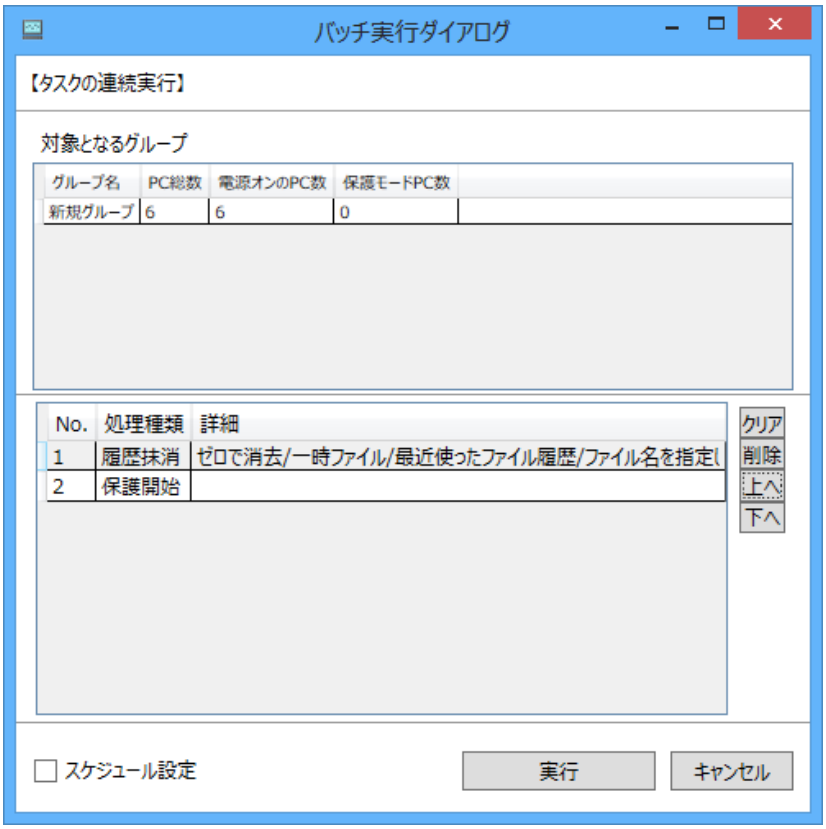
「ツール」タブでは、バッチ登録によるタスクの連続実行と、実行した操作の履歴を確認できます。



連続実行

■連続実行

各操作画面で「バッチに追加」をクリックすると、設定した内容で「タスク」が下の画面に追加されます。登録されている順番でタスクを連続実行できます。



■作業履歴

「オーダー一覧」タブおよび「タスク一覧」タブで、各作業履歴を確認できます。

■作業履歴―「オーダー一覧」タブ

オーダー一覧を確認するには、日付を指定して「更新」をクリックします。実行されたオーダーの詳細を確認できます。

■作業履歴―「タスク一覧」タブ

タスク一覧を確認するには、日付を指定して「更新」をクリックします。実行されたタスクの詳細を確認できます。

「失敗」と表示されている場合は、タスク処理が正常に行われていませんので、再度タスクの内容、クライアント PC の状態を確認してください。

タスクID	オーダID	クライアントPC	タスク実行開始日時	タスク実行終了日時	タスク状態	オーダ情報
11512	2	ark-pc001	2015/10/05 13:50:26	2015/10/05 13:50:26	処理終了 - 成功	{"Order":"EndBatch"}
11511	10401	ark-pc001	2015/10/05 13:50:25	2015/10/05 13:50:26	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11510	10400	ark-pc001	2015/10/05 13:50:23	2015/10/05 13:50:25	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11509	10399	ark-pc001	2015/10/05 13:50:22	2015/10/05 13:50:24	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11508	10398	ark-pc001	2015/10/05 13:50:22	2015/10/05 13:50:26	処理終了 - 成功	{"Order":"BatchOrder"}
11507	10397	ark-pc001	2015/10/05 13:49:10	2015/10/05 13:49:12	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11506	2	ark-pc001	2015/10/05 13:47:03	2015/10/05 13:47:03	処理終了 - 成功	{"Order":"EndBatch"}
11505	10396	ark-pc001	2015/10/05 13:47:02	2015/10/05 13:47:17	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11504	10395	ark-pc001	2015/10/05 13:47:00	2015/10/05 13:47:02	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11503	10394	ark-pc001	2015/10/05 13:46:59	2015/10/05 13:47:01	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11502	10393	ark-pc001	2015/10/05 13:46:59	2015/10/05 13:47:03	処理終了 - 成功	{"Order":"BatchOrder"}
11501	2	ark-pc007	2015/10/05 13:21:21	2015/10/05 13:21:21	処理終了 - 成功	{"Order":"EndBatch"}
11500	10392	ark-pc007	2015/10/05 13:21:20	2015/10/05 13:21:35	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11499	10391	ark-pc007	2015/10/05 13:21:15	2015/10/05 13:21:20	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11498	10390	ark-pc007	2015/10/05 13:21:06	2015/10/05 13:21:18	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11497	10389	ark-pc007	2015/10/05 13:21:06	2015/10/05 13:21:21	処理終了 - 成功	{"Order":"BatchOrder"}
11496	2	ark-pc006	2015/10/05 13:21:09	2015/10/05 13:21:09	処理終了 - 成功	{"Order":"EndBatch"}
11495	10392	ark-pc006	2015/10/05 13:21:09	2015/10/05 13:21:23	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11494	10391	ark-pc006	2015/10/05 13:21:07	2015/10/05 13:21:09	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11493	10390	ark-pc006	2015/10/05 13:21:05	2015/10/05 13:21:08	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11492	10389	ark-pc006	2015/10/05 13:21:05	2015/10/05 13:21:09	処理終了 - 成功	{"Order":"BatchOrder"}
11491	2	ark-pc005	2015/10/05 13:21:06	2015/10/05 13:21:06	処理終了 - 成功	{"Order":"EndBatch"}
11490	10392	ark-pc005	2015/10/05 13:21:06	2015/10/05 13:21:20	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar
11489	10391	ark-pc005	2015/10/05 13:21:05	2015/10/05 13:21:06	処理終了 - 成功	{"Order":"ExecModule","ModuleNar

再実行と履歴の削除

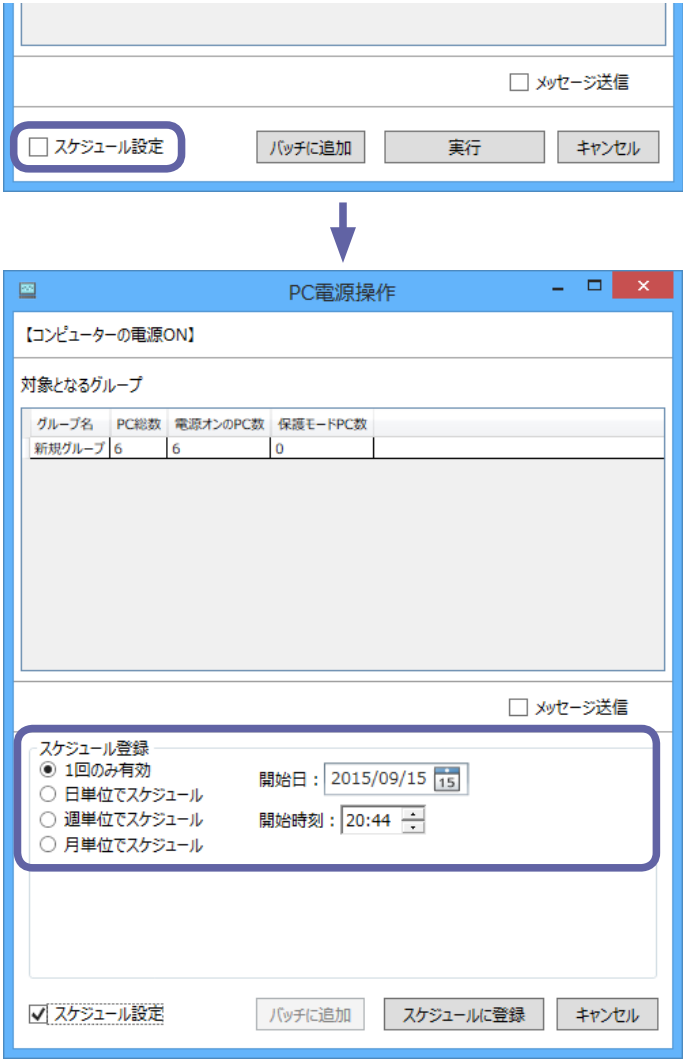
オーダーまたはタスクの履歴画面で右クリックするとメニューが表示されます。選択した行のオーダーまたはタスクの再実行や履歴の削除を行うことができます。オーダーにおいては、この画面からタスクスケジューラーに登録されているスケジュールを削除することもできます。

●オーダーの右クリックメニュー

●タスクの右クリックメニュー

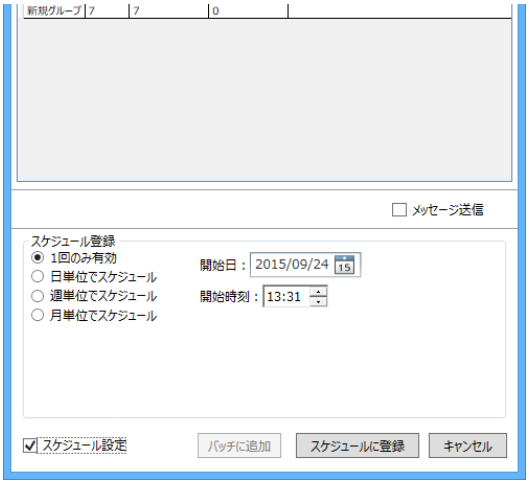
スケジュールの設定

各操作画面下にある「スケジュール設定」にチェックを入れ、スケジュールを設定して操作を実行することができます。画面が下に延びてスケジュールを登録することができます。スケジュールを設定する場合は、バッチ処理との併用はできません。



● 1 回のみ有効

1 回のみ有効なスケジュールです。「開始日」に過去の日時が指定された場合は、抹消が即時実行されます。

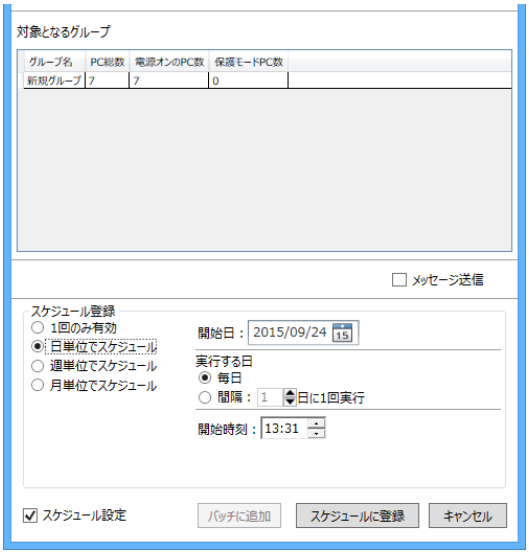


●週単位でスケジュール

週単位のスケジュールでは、週の特定の曜日、特定の時間にスケジュールを実行することができます。一定の間隔でスケジュールを実行するには、「間隔」を 1 週 (毎週) ～ 52 週 (1 年ごと) の範囲で入力します。

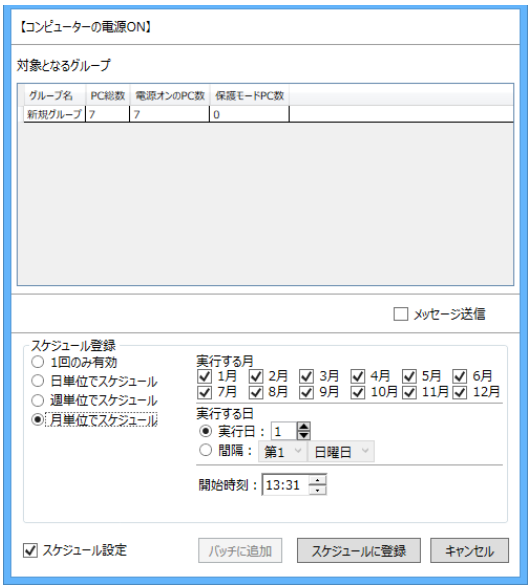
●日単位でスケジュール

日単位のスケジュールでは、毎日または一定の間隔でスケジュールを実行することができます。「開始日」に過去の日時が指定された場合は、登録日を起点として次回のスケジュールが計算されます。一定の間隔でスケジュールを実行するには、「間隔」は、1 日 (毎日) ～ 365 日 (1 年ごと) の範囲で入力します。



●月単位でスケジュール

月単位のスケジュールでは、特定の月、特定の日にスケジュールを実行することができます。「実行日」は 1 日～ 31 日が指定できますが、2 月 30 日や 31 日のない月で 31 日を指定すると、実行できる日時が存在しないためスケジュールが実行されません。

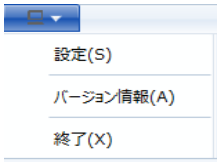


その他の機能（メイン画面から）

メイン画面から、データベースサーバーの設定、ライセンス情報の確認、クライアント PC の詳細情報の出力などが可能です。

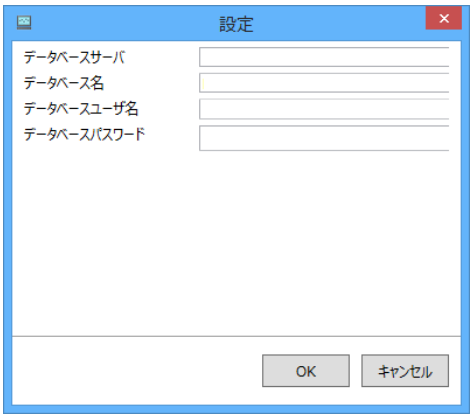
データベース設定とライセンス情報の確認

メイン画面の左上のメニューを開きます。



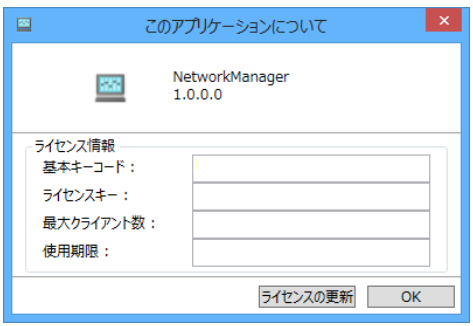
●データベースサーバーの設定

メニューで、「設定」を選択すると、データベースサーバーの詳細を確認できます。サーバーを変更するには、この画面でサーバー名を変更してください。



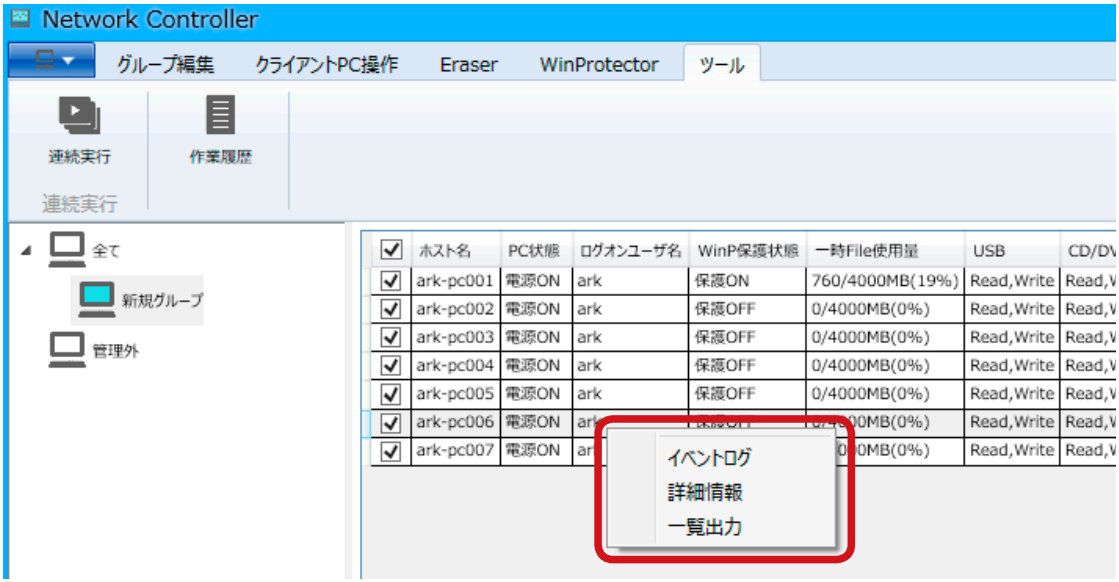
●ライセンス情報の確認

メニューで、「バージョン情報」を選択すると、Network Controller のライセンス情報を確認できます。ライセンス期間が切れた場合など、新しいライセンスキーを入力する場合はこの画面から行ってください。



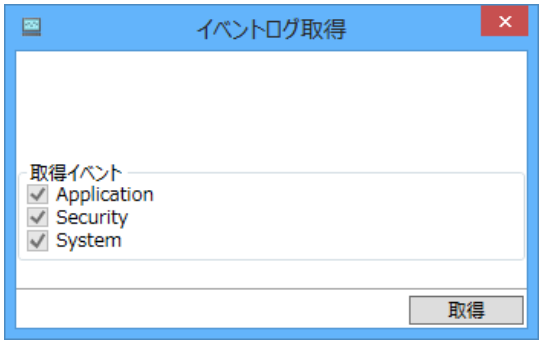
クライアント PC の情報確認

メイン画面で、「クライアント PC 一覧」を右クリックしてメニューを開きます。



●イベントログ

クライアント PC のイベントログを取得します。



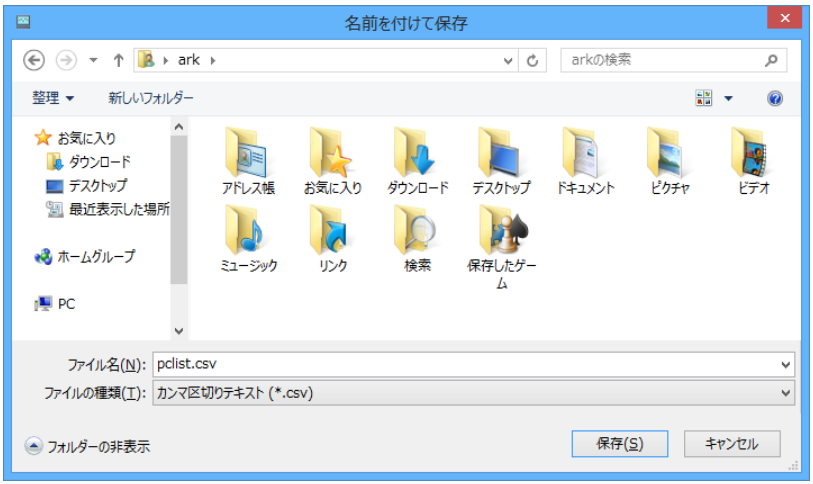
●詳細情報

クライアント PC の情報を表示します。csv ファイルに出力することができます。

項目名	値
ホスト名	ARK-PC001
OS名	Microsoft Windows 8.1 Pro
OSバージョン	6.3.9600 Service Pack 0 ビルド 9600
OS製造元	Microsoft Corporation
OS構成	ワークステーション
OSビルドの種類	Multiprocessor Free
所有者	ark
組織	
プロダクトID	
最初のインストール日	20140416192034.000000+540
起動時間	20151005135056.487854+540
システム製造元	System manufacturer
システムモデル	System Product Name
システムの種類	x64-based PC
プロセッサ	Intel(R) Core(TM) i3-3220T CPU @ 2.80GHz
BIOSバージョン	ALASKA - 1072009
Windowsディレクトリ	C:¥WINDOWS
システムディレクトリ	C:¥WINDOWS¥system32
起動デバイス	¥Device¥HarddiskVolume1
システムロケール	ja-JP
タイムゾーン	(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京
物理メモリの合計	7877MB

●一覧出力

クライアント PC 一覧を csv ファイルに出力します。



・本ユーザーズ・マニュアルは PDF ファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe 社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
・Adobe Reader はセットアップ画面からインストールすることができます。

・Microsoft® Windows Server® 2012、Microsoft® Windows Server® 2012 R2、Microsoft® Windows Server® 2008、Microsoft® Windows Server® 2008 R2、Microsoft® Windows Server® 2003、Microsoft® Windows Server® 2003 R2、Microsoft® Windows® RT、Microsoft® Windows RT® 8.1、Microsoft ®, Windows®10, Windows®8, Windows®8.1, Windows®7, Windows®Vista, Windows®XP, Windows PE は米国 Microsoft Corporation の、米国および他の国における登録商標または商標です。
・その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

Network Controller ユーザーズ・マニュアル

2015 年 10 月 1 日　第 1 版発行
発　行　株式会社アーク情報システム
〒 102-0076　東京都千代田区五番町 4- 2　東プレビル

ⓒ 2015　Ark Information Systems